

第四十六回帝國議會 衆議院 陪審法案委員會會議錄(速記)第四回

會議

大正十二年二月十九日午前十時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鶴澤 總明君

理事 黒住 成章君

理事 清瀬 一郎君

宮崎三之助君

原 夫次郎君

麓 純義君

熊谷 直太君

水野吉太郎君

禮 苗代君

同月十七日委員作間耕逸君辭任ニ付キ其ノ補闕トシテ鈴木富士彌君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 岡野敬次郎君

司法次官 山内確三郎君

司法省刑事局長 林 頼三郎君

司法省行刑局長 山岡萬之助君

司法書記官 近藤 三郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

陪審法案(政府提出)

○鶴澤委員長 是ヨリ陪審法案ノ委員會ヲ始メマス

○横山委員 此陪審制度ノ根本ニ付キマシテ、多少承ル所ガアリマス、尙ホ重ネテ質シテ置キタイト思ヒマス、點ハ、普通選舉ノ關係デアリマス、本會ノ席デ述ベラレタ如ク若シ、人民ノ要求ニ依テ陪審制度ヲ認ムルト云フコトガ趣旨デアラバ、即チ司法當局ノ言葉ヲ以テ申シマスレバ、人文ノ發達ガ陪審制度ヲ許スニ適當ナル時期ニ達シタト云フコトデアリマス、普通選舉ニ關シテ現内閣ガ調査會ナルモノヲ設ケテ、普通選舉ヲ即行スルノ意思ナキコトヲ表明セラレタルコトハ、撞着矛盾デハナイカト云フコトヲ御尋致シマス、此點ニ對シテハ確カ本會議ニ於テ何等ノ答辯モナカッタヤウニ記憶致シマス、ソコデ司法當局ノ御意見ヲ承リタイノハ、所謂普通選舉ナルモノガ國民多數ノ要求デアリ、殊ニ今日ニ於キマシテハ、或ル程度マデハ官海ノ人モ其必要ナルコトヲ認メテ居リマス、又多年此案ニ反對ヲセラレテ居リマシタ政友會ノ少壯議員ノ間ニモ、既ニ普通選舉ノ必要ナルコトヲ提唱セラレル諸君ガ澤山アルノデアリマス、其他ノ政黨デアルトカ、或ハ國民ノ側ニ於キマシテハ、コ、數年ノ間普通選舉ノ要求ト云フモノハ、定ニ熾烈ナ

ル勢ヲ以テ擡頭シ來ッタノデアリマス、議會ノ開クル毎ニ、年々歳々普通選舉ノ要求ノ運動、即行ノ聲ト云フモノハ、定ニ盛ナルモノガアルト云フ事柄ハ、當局モ御承知ノ通りデアリマス、昨日モ築地ノ精養軒ニ於テ全國記者大會ガアリマシテ、或ハ浦鹽ヨリ、或ハ北海道ヨリ、四國九州ヨリ、全國ノ新聞社殆ド悉ク數人ノ社員ヲ派遣シテ、サウシテ普通選舉斷行ノ必要ナルコトヲ唱ヘテ居ルト云フ有様デアリマス、而シテ既ニ此勢ヲ以テ要求シテモ政府ガ之ヲ顧ミナイカラ、憲法上ノ權能ニ基イテ、國民ノ最後ノ權利デアラル途ニ出ヅルト云フコトノ決議モアッタヤウナ次第デアリマス、即チ司法當局ガ國民ノ聲ヲ聽カレ、國民ノ要求ノアル所ヲ承認セラレテ、陪審法案ヲ御提出ニナルト云フコトデアリマス、ナラバ、是ト權衡ヲ得ル上カラ申シマシテモ、普通選舉ニ對シテ何等カノモウ少シ進シテ御考慮ガナクチャナラスト考ヘテ居ル者デアリマス、此故ニ私ハ陪審法ノ方ヲ主トシテ承リタイノハ、陪審法ヲ實行スルニ付テ、人文ノ發達、國民ノ要求ト云フモノハ定ニ盛デアルト言フガ、之ヲ當局ガ御認メニナッタノハ、元來如何ナル事實ヲ捉ヘテ陪審制度ガ國民ノ要求デアリ、又人文ノ發達ガ之ヲ實行スルニ付テ差支ガナイト云フコトノ確信ヲ得ラレタル根據ハ何レニアルカ、陪審法ハ幾ノ議會ニ於テ僅ニ帝國議會ノ問題トナッテ、サウシテソレガ新聞紙其他ノ方法ニ依ッテ國民ニ公表セラレタト云フニ過ギナイノデアリマス、陪審法實行ノ爲ニ、普通選舉ノソレノ如ク、全國各地ニ要求ノ運動ガ起ッタト云フ事モ承リマセズ、又新聞雜誌ノ論調カラ致シマシテモ、間々之ヲ唱導致シテ居ルモノガアリマス、クレドモ、普通選舉ノソレノ如ク、全國各地ノ新聞雜誌ガ之ヲ要求致シテ居ルト云フコトハ事實デアリノデアリマス、私ハ之ヲ許スコトニ付テ毫モ異存ハナイノデアリマス、人文ノ發達ハ之ヲ實行シテ可ナリ、而シテ國民多數ノ要求デアルト云フコトノ事實ヲ、何ニ依ッテ司法當局ハ認メラレタト云フコトニナルノデアリマス、甚ダ普通選舉ニ對スル政府ノ態度ト比較致シマシテ、吾々ノ諒承ニ苦シムモノガアリマス、之ヲ先ヅ御答ヲ願ヒマス、第二ニ質問致シテ置キタイト思ヒマス、點ハ、過日來司法大臣ノ御答辯モ、定ニ詳細ヲ極メテ居リマシテ、大體之ヲ諒承シタノデアリマンガ、私ハ最初ヨリ此司法制度ノ完備ノ爲ニ陪審制度ヲ實行致シテ、是マデノ司法制度ノ缺陷ヲ補フ必要ガアル、元來立法行政ニ對シテ國民ノ參與ヲ許ス以上ハ、吾々人民ノ生命、財産、自由、名

譽ヲ保護スル所ノ裁判機關ニ、國民ガ參與セズシテ可ナリトノ理由ハ無イノデアルカラシテ、所謂憲政完美ノ上カラ申シマシテモ、ドウシテモ人民ノ參與ヲ要スル、而シテ人民ノ參與ヲ許スコトニ依ッテ、裁判ノ所謂民衆化ヲ徹底スルコトガ出來ル、裁判ガ民衆ニ接觸スルト同時ニ、民情ト云フモノヲ司法機關ガ諒解スルト云フコトニナリマス、結果、裁判ト云フモノハ民情ニ懸離レタ既往ノ如キ奇怪至極ナル判決ヲ見ルコトナクシテ、民情ニ適シタル判決ヲ見ルコトガ出來ルデアラウ、此ニ於テ人權ノ擁護ガ出來、又人權ノ擴張ガ出來ルノデアル、而シテ人權ノ擁護、人權ノ擴張ト云フモノハ、憲法政治ノ究竟ノ目的デアルト、斯様ニ申シテ居ッタノデアル、此點ニ付テ司法當局ノ立場ハ、人權ノ蹂躪ト云フ事實ハ無イ、而モ最近ニ於テハ絕對ニ無イノデアル、今日人權蹂躪ノ聲ヲ聞クコトガ無クナッタト云フコトハ、非常ニ國家ノ爲ニ幸デアルト、斯ウ云フ見地ニ立ッテ居ラル、ノデアリマスガ、吾々ハ人權蹂躪ノ事實ハ常ニアルト云フコトヲ主張致シテ居ル、其事例亦乏シカラズト云フコトモ申シテ居ルノデアル、此故ニ人文ノ發達ニ依ッテ陪審制度ヲ認メ、國民多數ノ要求ニ依ッテ陪審制度ヲ實行スル、定ニ結構デアリマスガ、其以外人權ノ擁護、人權ノ擴張ト云フ項目ハ、司法當局提案ノ理由トシテハ、之ヲ含マヌモノデアリマス、カドウカ、私ハ此意味ヲ陪審制度ノ根據ニ加フル、陪審制度提案ノ理由ノ中ニ加フルコトガ、私ハ國民ノ要求デアリ、又現時ノ司法制度ノ時弊ヲ或ル程度マデ矯正スル所ノ最良ノ手段デアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、當局ハ依然トシテ單ニ人文ノ發達、單ニ國民ノ要求ト云フコトノミニ説明セラレテ、サウシテ本案提出ノ理由ヲ維持セントセラル、モノデアルカドウカ、此事ヲ承リタイノデアリマス、而シテ第三ニ承リタイノハ、此陪審制度ハ、審級制度ヲ認メテ居ラナイノデアリマス、詰リ一審限りデ解決スル、是ハ他國ノ立法例モアリマス、陪審制度ノ大體ノ觀念カラ申シマシテ、必シモ陪審制度ニ第一審、第二審、第三審ト云フガ如キ審級制度ヲ認ムルノ必要ハ無イカノ如ク考ヘラレマス、クレドモ、併ナガラ此我國ノ今日ノ裁判制度ニ關スル吾々ノ經驗カラ申シマス、ト云フ、ドウモ此一審限りデ總テノ事件ノ解決ヲ了ルト云フ事柄ハ、如何ニモ危險デハナイカ、過日黒住君ノ出サレタ例ノ如キ、一審デ無罪デアッテ、而シテ二審デ死刑ニナッタ居ル、ソレガ大審院ニ於テ破毀セラレ他ノ裁判所ニ於テ又無罪ノ判決ヲ受ケ

夕事例ガアル、是ハ定ニ極端ナ事例デ、斯ウ云フ事例ガ毎日
毎日我が司法部ニ行ハレテ居ルハ私ハ申シマセガ、之
ニ類スル事例ハ少クナイノデアリマス、此弊害ト云フモノ
ハ、陪審制度ノ實行ニ依ッテ直ニ無クナルモノデアルト云フ
コトハ、吾々ハ想像スルコトハ出来ナイ、裁判ノ民衆化ハ洵
ニ結構デアアル、司法部ニ民情ノ徹底スルト云フコトハ、洵
ニ結構デアリマス、何シロ法律ノ素養ノ乏シイ、裁判
法廷ノ事ニ知識ノ無イ、單ニ常識ヲ以テ裁判ニ——陪審ニ
參與スルト云フコトニナルナラバ、其實質ノ認定ト云フコ
トハ、往々ニシテ間違ガアルト云フコトハ、吾々今日之ヲ想
像シナケレバナラス、此事實ノ認定ノ間違ト云フ事柄ハ、寧
ロ常識ノ經驗ノアル憲法ノ保障ノアル獨立ノ裁判官ヨリモ、
單ニ常識ニ依リ事實ノ認定ニ參與致シマスル陪審員ノ方
ニ、缺點ガ多クハナイカト考ヘルノデアリマス、此見地カラ
見テ、今日ノ法律ノ知識アリ、相當ノ試驗ヲ經テ、相當ナル
年月ノ間實習ヲ致サレタル常識ノ裁判官デスラ、事實ノ認
定ハ時々間違フノデアアル、其故ニ一審二審三審ト云フ審級
制度ヲ認メテ居ル、洵ニ司法制度ノ用意至リ盡セリデア
ル、所ガ陪審ノ方ハ、本案ノ内容ニ依ッテ明瞭デアリマス如
ク、比較的重大ナ犯罪ヲ取扱フ、輕微ナ犯罪ニ付テハ陪審制
度ノ適用ガナイト云フコトガ本案ノ本旨デアリマス、サウ
致シマスルト云フト、比較的重大ナ犯罪ヲ取扱フ所ノ陪
審制度ノ上ニ於テ、常識ノ裁判官ガ時々經驗スル所ノ事實
ノ認定ニ關スル錯誤ヨリモ、寧ロ陪審員ノ方ニ其錯誤ノ程
度ガ多イト云フコトニナルト、折角陪審制度ヲ開イテ、司法
制度ノ完備ヲ期スルコト、人權ヲ擁護スルコトハ結構デア
リマス、ケレドモ、却テ人權ノ上ニ由テ救済ヲ來スヤウナ
事ハアリハシナイカト私ハ憂フルノデアリマス、此故ニ或
ル程度マデ審級制度ヲ加味スル必要ハナイカドウカ、陪審
ノ支配ヲ受ケル全國全部ノ事件ニ付テ、一審二審三審ト云
フヤウナ審級制度ヲ設ケルト云フコトハ、到底不能デアリ
マス、ケレドモ、少クトモ死刑デアルトカ、或ハ十年二十年ノ
刑ヲ受ケル者、或ハ無期刑ト云フモノハ、何等カラ制限ノ設
ケテ、極メテ狭キ範圍ニ於テモ、重大ナ犯罪ニ關シテハ複審
ノ途ヲ講ズルト云フコトハ、私ハ立法者トシテ探ルベキ途
デハナイカト思フ、殊ニ今日ノ事情ニ照シテ、私ハ斯クアル
モノデアラウト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、何事モ知
ラヌ無期刑、死刑ノ刑ニ相當スル重大ナ犯人ガ、陪審ノ裁判
ヲ受ケレバ是ガ無罪ニナル、輕クナルト云フヤウナ一知半
解、陪審ニ飛ビ込シテ來テ、間違タ裁判ヲセラレテ、控訴モ
上告モ出來ナイ、一審限りデ死刑ノ宣告ヲ受ケ、無期刑ノ裁
判ガ確定スルト云フコトニナルト、大體サウ云フコトニ出
逢ヒマシタ被告人ノ失望落膽ト 國民ノ陪審制度ニ對スル

不平不満ト云フモノハ、寧ロ今日ノ裁判制度ヨリモ多クナ
リハセスカト思フノデアリマス、此點ニ關シテハ從來ノ立
法ノ手續ノ經過ニ於テ、多少サウ云フ議論ガアッタノデアリ
マセウカ、又無シタルモノ、今日司法當局ハ其點ヲ如何ニ見
テ居ラレマスルカ、取敢ヘズ此三點ヲ伺ヒタイ
○林政府委員 横山君ノ只今御尋ノ第一點ハ、普通選舉ノ
問題ト比較シマシタ、陪審制度樹立ニ付テ、國民ノ聲ガドノ
程度デアアルカ、又政府ハドウ云フ所カラ國民ノ要求アル
コトヲ知ツタノカ、斯ウ云フ御問ノヤウデアリマスガ、普通
選舉ノ問題ニ付テハ、國民ノ或ル部分ニ、或ハ其聲ノアルト
云フコトハ、事實ノヤウデアリマス、政府モ昨年カラ選舉法
調査委員會ヲ設ケテ、諸般ノ點ニ於テ調査致シテ居ル
ヤウナ次第デアアル、何レ政府ノ方針ハ遠カラズ決スルコト
考ヘマスガ、併シソレハ陪審制ニ何等關係ガ無イノデア
リマス、ソレ以上御答スル必要ハ無イト思ヒマス、陪審法ノ
問題ニ付キマシテ、御尋ニ付テ御答致シマスガ、ドウ云フ
方面カラ國民ノ要求ガアルト云フコトヲ知ツタカ、斯ウ云
フコトデアリマスガ、是ハドウモ凡ユル方面カラ之ヲ知リ
マシタノデ、之ヲ一々簡條書ニ申スコトハ無論出來ナイ、併
ナガラ形式ニ現ハレマシタ主ナル事ヲ申シマスレバ、陪審
制度樹立ノ事ハ、現ニ今ヨリ凡ソ十年前デアリマスガ、衆議
院ニ於テ建議案トシテ可決サレテ居ル、ソレカラ又直接ニ
職務上關係アリ辯護士ノ會等ニ於テ、陪審制度ヲ樹立スル
方ガ宜イト云フ決議ガアリマシタ、又御承知ノ法制審議會
ノ各方面ノ有識者ヲ網羅シテ重要ナル問題ヲ決シテ居ル
ノデアリマスガ、法制審議會ニ於テモ、滿場一致デ之ヲ議決
シテ居ル、學者モ實際家モ、亦直接ニ斯ウ云フ事ニ關係ノナ
イ方面ノ委員モアルガ、一人ノ異論者ナク、滿場一致デ可決
シテ居ルト云フヤウナ事モ現ハレテ居ルノデアリマス、又
現ニ昨年ハ衆議院ニ於テハ本案ト殆ド同ジト云フテ宜イ案
ガ可決致サレテ居ル、サウ云フヤウニ形式上現ハレマシタ
主ナル事ヲ舉ゲマシテモ、三四種ノ事柄ガアリマス、其他凡
ユル方面カラ致意致シマシテ、陪審制度樹立ト云フコトノ
國民ノ要求ガアル、斯ウ云フ事ヲ認メテ居ル次第デアリマ
ス、無論國民ノ要求ガアレバソレデ必ズヤルト云フコトニ
ハ參ラナイ、國民ノ要求モ時トシテハ當ヲ得ナイコトモア
ル、併シ陪審制度樹立ハ、政府ニ於テモ今日ノ時勢ニ於テ必
要デアアル、斯ウ云フ確信ノ下ニ案ヲ立テマシテ次第デアリ
マス、ソレカラ第二ハ人權ノ擁護、人權ノ擴張ト云フヤウナ
コトガ、陪審制度ヲ樹立スル一ツノ理由ニナッテ居ラスノデ
アルカ、ドウカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、是ハ實ハ御尋
トシテハ不思議ナ事デアルト思フノデ、凡ソ刑事訴訟手續ニ
關スル法規ト云フモノハ、何レモ人權擁護ト云フ趣意ヲ含

ンデ居ラスモノハナイ、陪審法ニ對シテ普通法デアアル新刑
事訴訟法、是ハ人權ノ擁護ノ趣意ニ於テ幾多ノ規定ヲ設ケ
ラレマシタ、昨年當院ノ議決ヲ經テ居ルヤウナ次第デア
リマス、陪審法モ勿論同様デアリマス、刑事訴訟法規ニ關ス
ル共通ノコトデアアルカラ、之ヲ陪審法制定ノ理由トシテ特
ニ論ズル必要ハ無イ、當リ前ノ事デアアル、故ニ陪審法案提出
ノ理由トシテ特ニ之ヲ舉ゲテハ居リマセガ、併ナガラ人
權擁護ノ趣意ヲ含ンデ居ルト云フコトハ、言フ迄モナイ
私ハ考ヘテ居ル、ソレカラ第三ハ審級制度ヲ認メテ居ナイ
ガ、之ハドウ云フ譯デアアルカ、審級制度ヲ認メナイハ却テ
危險デハナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、御尋ノ通り此
法案ニ於テハ、陪審ノ評議ニ掛カル事件ニ付テハ、二審級制
度デアリマシタ、三審級制度ニハナッテ居ラナイ、併ナガラ
此法案ノ趣意ノ如キ陪審制度ニ於キマシテ、事實審ヲ再ビ
繰返スト云フコトハ、全ク必要ガ無イト云フコトヲ確信致
シテ居ル、若シ歐羅巴ニ於テ行ハレテ居ル如キ陪審制度、即
チ陪審員ガ事實ニ付テ決定權ヲ持ツ、斯ウ云フコトニナ
リマスルト、横山君ノ御尋ニナリマシタ通り、往々ニシテ
事實ノ判斷ヲ誤ルト云フ危險ハアル、ソレハ歐羅巴ニ於テ
モ陪審制度ニ對シテ非難ノ主ナルコトニナッテ居ル、ソレ
故ニ本案ニ於テハ事實ノ決定權ヲ與ヘナイ、陪審員ハ評議
ヲシテ答申ヲスル、裁判所ガ其答申ヲ相當ト認ムレバソレ
ニ基イテ判決ヲスル、相當ト認メナケレバ更ニ新シク陪審
員ノ評議ニ付シテ、結局陪審員ノ判斷ト裁判官ノ判斷ト一
致スル所ニ於テ判決スルト、斯ウ云フコトニナッテ、即チ常
識ト温情トヲ以テ素人ノ判斷ト、專門家デアッテ冷靜ナ
判斷ヲスル所ノ裁判官ノ判斷ト、スツクリ會フタ所デ判
決ガ下ルノデアリマス、陪審員ノ判斷ガ誤レテ居レバ、
裁判官ノ方デ之ヲ認メナイ、素人モサウデアルト言ヒ、專門
家モサウデアルト言フコトデ判斷ガ下ルノデアアルカラ、先
ヅ人事ヲ盡シタモノデアルト謂ハナケレバナラスト考ヘ
ル、ソレデアリマス、カラ、サウ云フ手續ヲ更ニヤッテ見タ所
ガ、更ニヤッテ方ガドレダケノ値打ガアルカ、之ハ私ハ全ク
必要ガ無イト思フ、詰リ此法案ノ特色トスル所ガソコデ
アリマス、世間或ハ陪審制度トシテハ不徹底デアルト云フ
コトヲ論ズルモノモアリマスガ、之ハ外國ノ陪審制度ト
比較シテ論デアアル、此法案ニ於テハ横山君ノ御尋ノ如キ
處ガ外國ノ陪審制度ニアルカラシテ、其弊ヲ矯メル爲ニ、
日本ノ全ク新シイ陪審制度ヲ立テ次第デアリマス、是
ハ此陪審法案ノ特色トスル所デアリマシタ、斯ノ如キ陪審
制度ヲ日本デ新シク作ルコトニ於テ、大ニ誇リトスル所
デアアル、吾々ハ陪審制度ノ理想案デアルト迄確信致シテ居
ル次第デアリマス、此制度ニ於テハ横山君ノ言ハル、ヤウ

テ危險ノ虞ハ全ク無イト、斯ウ云フコトヲ信ジテ居ル次第
デアリマス

○横山委員 第一ノ普通選舉トノ關係デアリマスルガ、之
ハ御説明ノ如ク殆ド普通選舉ヲ除外シテ御審議ニナル必要
モアリマス、併ナガラ吾々ノ側カラ見ルト、陪審制度
ノ要求ガ貫徹セラレテ、普通選舉ノ要求ガ貫徹セラレ
云フ事柄ハ、全ク不公平デアッテ、ソコニ政府委員ノ矛盾ガ
アルト云フコトヲ言フノデアリマス、此矛盾アルガ爲ニ陪
審法ヲ否定スルノデアリマス、陪審ヲ實行シテ位ナラバ、何ガ
故ニ普通選舉ヲ實行シナイノデアアルカ、斯ウ云フ趣旨デ
アルノデアリマス、私ハ當局ノ説明ニ満足シマセヌガ、之
ハ又他ノ機會ニ譲リマス、第二ノ人權擁護ノ點ニ付テ更
私ハ御尋ね致シテ置キタイノデアリマス、私モ政府委員ノ通
リノ解釋ヲシタイノデアリマス、總テノ刑事政策、悉ク人權ノ擁
護ト擴張ニ在ルト、斯ウ私ハ申シタイ、ソコデ先刻申上ゲマ
シタ通りニ私ノ方デハ、司法制度ニ缺陷ガアルノミナラズ、
現實ノ裁判權ノ運用ニ關シテモ、今迄往々人權蹂躪ノ事實
ガアルノデアリマス、ソコデ根據ニ立テ居ル、司法當局ハ人權
蹂躪ノ事實ハ今日ハナイノデアリマス、斯ウ云フ見地ニ立タ
レテ居ル、ソコデ吾々ノ見ル所ヲ以テスレバ、人權蹂躪ノ事
實ガアルカラシテ、陪審制度ノ如キモノヲ布イテ、サウシテ
人情ヲ加味シテ、人情ニ徹底シタル裁判官ガ裁判ヲスレバ
其弊ナキニ近付クノデアラウ、其弊ガ少ナクナルデアラウ、
只今ノ司法制度ノ缺陷ヲ補フノミナラズ、司法大臣ノ仰セ
ノ通りニ、常職ノ裁判官ガ時ニ或ハ陷ラントスル所ノ弊害
ヲ豫防スルコトガ出來ルト、斯ウ云フノデアリマス、假リニ
一點半個ト雖モ人權蹂躪ノ事實アリトスレバ、之ニ對スル
應急策トシテモ陪審制度ハ必要デアアル、斯ウ云フノガ吾々
ノ意見デアリ、又在野法曹ノ要求スル所ハ其所ニアッテ、
アリマス、此故ニ陪審制度ノ實行ト云フコトニ付テハ、特ニ
人權ノ擴張、消極的ニ申シマスレバ人權蹂躪ノ事實ナカラ
シムル爲ニ本案ヲ提出スルト云フコトニナリヤセンカト云
フコトヲ申シタイノデアリマス、此點ヲ御諒解ヲ願フテ更ニ御
意見ノ在ル所ヲ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ最後ニ承ッテ置
キマスルガ、此陪審法案ノ提出、ソレカラ四十五議會ノ刑事訴
訟法ノ提案、共ニ重大ナル意義ヲ有テ居リマス、先ヅ刑事
訴訟法ノ上カラ申シマスルコト云フ、或ハ醇風美俗ヲ保護
スルノ規定モ設ケ、或ハ裁判官ノ職ニ權屬スル所ノ未決ノ
拘留期間ト云フモノヲ二箇月ニ限定スル、或ハ豫審判事ノ
權限ヲ防グガ爲ニ辯護人ヲ附スル、或ハ被疑者ノ閱歷、人格、
周圍ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ起訴セヌ場合ガアル、斯ウ云
フヤウナ人民ノ權利、利益、名譽ト云フモノヲ保護スル上ニ
於テ、非常ナル考慮ヲ運シテ居ラレ、之ハ洵ニ結構ナ事デ

アル、陪審制度モ私ハ同一ノ精神デアラウト思フ、事實ノ評
決ニ參與スルカ、或ハ人民ヲ入レテ裁判ノ民衆化ヲ圖ル
トカ、色々ノ口實モアリマセウガ、結局ノ所ハ個人ノ人權擁
護ト云フ事柄ニ歸着スルモノナルコトハ屢々言明スル所デ
アル、ソコデ私ノ疑ノ起テ來ルハ、斯ノ如キ法案ノ出テ來
ル理由、國家ノ爲政者トシテ何ガ故ニ斯様ナ思想ヲ持ツヤウ
ニナッテ來ルカ、過日モ一言致シマシタガ、民事關係ニ於テ、
借地借家ノ爭議ノ調停ヲ許スト云フ、是モ民事ノ一ノ陪審
デアアル、形式カラ見レバ幾ラカ陪審トハ差違ガアルカ知レ
マセヌガ、實質カラ見レバ、人民ガ參與シテ爭執ヲ決定スル
機關トナルノデアアルカラ、此借地借家ノ問題ニ付テハ、一
陪審ノ意味ヲ加味シタルモノデアアル、又斯様ナ制度ニナッ
來ルコトハ吾々ノ要求スル所デアアル、希望スル所デアアルガ、
斯ル制度ヲ設ケルニ至ラ根本義ハ、過日モ一言致シマシタ
通り、國家ノ權力ト云フモノガ、是マデ通リニ權力本位、腕
力本位デ國家ヲ維持シテ行クコトハ出來ナイ、故ニ國民ノ
國家ニ對スル思想觀念ノ上ニ變遷ヲ來シテ居ル、權利ノ上
カラ言フテモ、今日ノ進シテ來ル學、御承知ノ通り、權利ノ濫
用ハ許スベキモノデアリナイ、假令權利ハアッテモ、其權利ノ
濫用ニ屬スルモノハ、其權利者ノ實行ハ權利者ノ利益トモ
ナラズ、不當ニ債務者ヲ害スル如キモノハ權利ノ濫用デア
テ、斯ノ如キモノハ許サナイト云フ思想ガアル、或ハ法律ノ
解釋ノ上ニ、人民ノ思想ノ變遷ヲ加味シテ、或ハ程度マデ解
釋權ヲ以テ立法作用ヲスル如キ解釋法ヲ採ルモノモアル、
斯ノ如クニシテ是マデハ單ニ國家ハ權力ノ主體デアッテ、ド
コマデモ權力ヲ行用シテ、權力ニ依テ人民ニ臨ム、又個人ト
シテ權利ヲ持ツモノハ、假令其權利行使ガ自分ノ得ル所ナク、
如何ニ債務者ヲ害スルコトガ甚ダシクモ、權利デアアル以
上ハドコマデモ實行スル、斯様ナ思想デアッテ、併ナガラ此
權力本位ノ思想、權利本位ノ思想ハ、今日ノ制度ノ上、今日
法律ノ上ニ於テハ認メラル、事柄デアアルガ、國家ノ權力、
個人ノ權利ト云フモノ、最後ノ目的ハ、人民ノ利益、人民ノ
自由ヲ擁護スルニアルコトハ申スマデモナイ、此故ニ人民
ヲ保護スル職責ヲ有スル國家ガ權力ノ濫用ニ依テ、人民ヲ
害スルヤウナコトガアレバ、其行用ハ慎マナケレバナラズ、
濫リニ人ヲ拘禁シタリ、濫リニ毆打シタリ、濫リニ人ニ對シ
テ凌辱ヲ加フルガ如キ、國家ハ權力ノ濫用ヲスルコトハ出
來ナイ、個人トシテモ如何ニ權利デアッテモ、其權利ヲ濫用
スルコトガ社會ノ平和ヲ害スルコト云フコトニナレバ、國家
ハ其權利ノ使用ニ付テハ多大ナル考慮ヲ拂ハナケレバナラ
ズ、今日頻々トシテ起ル借地借家問題ノ如キ、最モ適例デア
ルト思ヒマス、三年五年ノ期限ガ來タカラ明渡ラセヨト云
フ、其土地ノ上ニハ地所ノ價格以上ノ不動產ガアル、サウシ

テ借家法ノ規定ニ依レバ豫告期間六箇月ト云フコトニナ
テ居ルカラ、六箇月經テタカラ此家ヲ空ケヨト云フ、ソレニ
依ッテ家主ハ何等ノ利益アルニ非ズシテ、債務者ノ非常ナル
困難ヲ感ゼシメ、是ガ爲ニ或ハ一家離散スルカ、破産スル
モノモアルト云フ状態デアアル、斯様ナ場合ノ權利濫用ニ付テ
ハ、餘程考慮シナケレバナラズト思ヒマス、所有權ノ觀念カ
言フテモ、自由ニ使用收益處分スル權利デアアルト同時ニ、
荷モ所有權ヲ持ツモノハ、自由ニ所有權ノ處分ガ出來ル、併
ナガラ今日ノ學者ノ解釋デハ、個人ノ所有權ヲ保護スル爲
ニソレヲ認ムルコトハ、社會ノ秩序ヲ保護スル爲ニ必要デ
アルカラ、國家ハサウ云フ制度ヲ設ケタモノデアアル、所有權
ハ一ノ信託デアリ、社會ハ公共ノ爲ニ認メラル權利デアアル
ト云フ説ヲナシテ居ル人モアル、所有權ノ法律上ノ論理ノ
解釋トシテハ無論取リマセヌガ、併シ國家ガ所有權ヲ認ム
ル起源ハ其所ニ在ルト思フ、個々ノ所有權ヲ認ムルコトニ
依ッテ人ノ勤勞ヲ進メ、財產權ヲ保護スルコトニ依ッテ秩序
ヲ維持シ、人ハ活動シ得ラレ、自由ト權利ヲ認ムルコトニ依
テ之ヲ擁護スルコトガ出來ルト云フコトカラ、所有權ヲ認
ムルニ至ラモノト考ヘ、其根源ノ思想ニ反シテ、權利ヲ
濫用スルモノガアレバ、其所有權ニ對シテ大ナル制限ヲ加
フルモノハ當然デアアル、法律ノ解釋上カラモサウナルカ知リ
マセヌガ、例ヘバ汽車ノ窓カラ、自分ノビールノ空罐窓外ニ
抛リ出セバ、確ニ權利ノ濫用デアアル、此權利ノ濫用ニ依ッ
テ、社會公衆ニ害ヲ與フル如キコトハ、假令法律其他ニ背カ
ズモ制限シナケレバナラズ、斯様ナ趨勢ニ赴キツ、アルト
考ヘ、而シテ國家ニ對スル國民ノ思想、權利ニ對スル國民
ノ思想、五ニ國ヲ成シテ居ル人間ガ、機會均等ノ主義ニ依
テ同等ノ自由ト同等ナル權利ヲ得テ、同等ナル生活ヲシタ
イト云フ根本思想カラ、國家權力ノ行用ヲ緩和シナケレバ
ナラズ、極端ナル權利ノ濫用ヲ許スコトガ出來ヌト云フコ
トニナリツ、アルト思フ、司法當局ガ陪審制度ヲ布カレテ、
民衆ノ利益ヲ認メラレ、非常識ナル獨斷擅行ノ裁判ヲ避ケ
ル爲ニ、裁判ノ民衆化ヲ圖ラレ、此思想ニ促ガサレタ
モノデアリナイカト考ヘ、若シ司法當局ガ今私ノ申上テ思想
ヲ此立法ノ理由ニ參照スルコト云フコトナラ、少シク司法當
局ニ御尋シナケレバナラズ、過日モ申上ゲマシタカラ今日
ハ省略致シマスガ、今日ノ刑事法廷ハ如何デアリマス、檢
事ガ立ッテ論告スルコトキハ、被告ノ起立シテ敬意ヲ表サナ
バナラズ、昨年山内次官御答デハ、ソレハ法律上ノ問題ニア
ラズシテ、司法行政ノ事務取扱ニ依ッテドウモナルト云ハ
マシタガ、今日依然トシテ居ル、檢事ガ數十分數時間立ッ
テ論告サレト、之ニ對シテ被告ノ起立シテ敬意ヲ表サナ
レバナラズ、是ハ國家權力ノ濫用、官吏職權ノ濫用ハ含マ

レヌデアリマセウカ、陪審制度ヲ布カレテ、民衆ノ利益ヲ擁護シ、裁判ノ民衆化ヲ圖ルト云フ精神ナラバ、檢事ノ論告ニ對シ、被告人ニ起立ヲ命ズルコト云フヤウナ制度習慣ハ、根本カラ更正シナケレバナラヌノミナラズ、吾々ノ要求スル所、吾々國民側ノ希望トシテ彈劾主義ノ訴訟法ノ上カラ言フナラバ、檢事ト被告人ト同等デナケレバナラヌ、檢事ノモ高イ處ニ居テ、被告人ガ低イ處ニ居テ論告スルト云フコトハ、彈劾主義ノ精神ニ反スル、元來其精神トシテ國民ガ彈劾權ヲ有ツベキモノデアアル、民事ノ事案ニ付ハ自分ノ權利ヲ擁護セントスレバ、自ラ原告トナツテ訴ヘル、毆打ヲ受ケ、放火ヲ受ケ、身體ノ傷害ヲ受ケタ 合ニ 如害者ニ向テ彈劾權ヲ行使セントスルナラバ、國民ガ彈劾スルコトガ彈劾主義ノ極致デアアル、併ナガラ司法當局ガ總々トシテ前同ニ於テ御説明ノ如ク、國民ニ彈劾權ヲ持タセルト云フコトハ未ダ早イ、司法機關ニ依ッテ、國民ニ代ッテ彈劾セシムルト云フコトガ、今日ノ制度ノ精神デアアルと思フ、即チ此彈劾主義ノ根據カラ云ヘバ、檢事ハ原告デアアル、裁判官ト一緒ノ席ニ居ルト云フコトガ既ニ間違ッテ居ル、檢事自ラ下ニ下ルカ、被告人ノ席ヲ上ゲルカ、國民ヲ引上ゲル代リニ檢事ヲ引下スカ、孰レニシテモ被告人ト對等ノ位置ヲ與ヘルト云フコトガ、陪審制度ヲ實行スル精神カラ來ル結論デアアルと思ヒマス、併ナガラ辯護人ノ席ヲ高クシタイト云ツタ所デ、是モ五年ヤ三年ノ要求デハナイガ、司法當局ハ顧ミナイケレドモ、何モ高イ處ヘ上リタイノデハナイ、上ツタ所デ辯論ガ好クナル譯デモナイ、檢事ガ御下リニナツタ所デ、被告人ノ利益ニナル譯デハナイガ、陪審制度ノ精神ノ上カラ見マスカラバ、成ベク人民ノ感情ヲ柔ゲ、人民ノ習慣ヲ斟酌シテ、成ベク國民ノ實生活ニ近イ裁判ヲスルノガ當然デアアル、此精神カラ言ヘバ、從來ノ如ク檢事ガ權柄ヲ握ッテ、恰モ帝王ノ如キ狀態ヲナシテ、時ニ被告人ヲ怒號叱咤シ、而シテ國民ノ面目、國民ノ自由ト云フコトヲ無視スル如キ狀態ト云フモノハ、何トシテモ陪審法ノ精神ト相容レヌト思フ、陪審法ハ之ヲ行フ主義ニ於テハ贊成デアリマスガ、是程ノ國民ノ要求スル、國民ノ歡迎スル、國民ノ思想ヲ柔ゲルニ足ルベキ大法典ヲ御實行ニナルナラバ、日々現行ノ裁判制度ノ下ニ國民ノ感情ヲ破壊シツ、アルアルノ檢事ノ辯論ニ對スル被告人ノ起立、即チ檢事席ト被告席ト對等ニスルガ如キハ、澤山ノ費用ナクシテ行ハレルト、思フ、而シテ之ニ對スル國民ノ感情如何ト云ヘバ、私ハ司法當局ニ向テ國民ハ非常ニ感謝スルノデアラウト思フ、而シテ檢事ト被告人辯護人ガ對等ノ地位ニ在ッテ、裁判官ガ其上ニ立ッテ公平ノ裁判ヲ下スコトニ依ッテ、始

メテ裁判モ公平デアリマセウシ、國民モ満足スルニ至ル譯デアリマス、私モ十數年間刑事法廷ニ出入シテ居リマスガ、被告人ニ就テ聞キマス、檢事ト裁判官ガ同ジ闊ヲ排シテ出テ來ル、同ジ闊ヲ排シテ去ル、檢事ト裁判官ト云フ者ガ何カ評議デモシテ、一列トナツテ裁判スル様ニ考ヘテ居ル、裁判ノ威信カラ云ツテモ、甚ダ迷惑千萬デアアル、裁判官ハ公平無私ニ評議ヲシテ、裁判ヲシヤウトシテ居ル、檢事ハソレニ參加スルノデアリマス、マイケレドモ、評議ヲシテ居ル所ヲ通過シテ便所ニ行クトカ、評議ヲシテ居ル所ヲ通過シテ法廷ニ出ル、斯ウ云フ事ハ國民ノ側カラ見レバ、誠ニ不可思議千萬デアアル、今日ノ裁判制度ニ對シテ、國民ガ疑ヲ抱ク一ツノ原因トナツテ居ルノデアリマス、此故ニ私ノ聽カントスル所ハ御分リデアラウト思ヒマスガ、要スルニ是迄ノ如ク國家ガ權力ヲ振廻スト云フコトハイケナイ、國家ハ盛ニ文化事業ヲ起シテ、國民ノ生活ヲ保護シ、國民ノ人權ヲ保護スル立場ニ居ナケレバナラヌ、腕力ト武力デ國民ヲ治メルト云フコトハ出來ナイ狀態ニナツテ居ル、又官吏モ國家ガ既ニ斯ノ如キ立場ニ居ル以上ハ、是迄ノ態度ヲ改メテ官尊民卑ノ舊弊ヲ脱シ、國民ヲシテ喜シデ裁判ヲ受ケシメ、悅ンデ裁判ニ從ハシメルト云フ態度ニ出デナケレバナラヌ、サウ云フ御考デアレバ、今日法廷ニ於ケル起立問題ノ如キ、檢事ト辯護人ノ席ノ問題ノ如キ、色々考慮セラレテ、別ニ費用モ要セズシテ、直ニ裁判ノ民衆化ト、民權擁護ノ實ヲ擧ゲ得レルノデアアル、之ヲドウシテ行ハレナイノカ、此邊ニ付テノ御答ヲ聽イテ、私ノ總論トシテハ質問ヲ終ルノデアリマス。

○林政府委員 横山君カラ段々長イ御演説ガアリマシタガ、先程御答ヘ申シタ通り、人權ノ擁護ト云フコトハ、有ユル刑事訴訟法規ノ根本ノ精神デアアル、刑事訴訟法ガ改正セラレテ、人權擁護ノ方面ニ於テドレダケノ新イ規定ヲ設ケタカト云フコトハ、横山君ノ御説ノ通りデアアル、隨テ刑事訴訟法ノ特別法デアアル陪審法モ、亦根本ノ精神ニ人權擁護ト云フ事ガ横ハツテ居ルト云フコトハ言フ迄モナイ、併ナガラ人權擁護ト云フコトハ、左様ニ共通ナ根本精神デアアルカラ、陪審制度ダケガ特ニ人權擁護セントスルモノアルト云フコトハ出來ナイ、ソレ故ニ陪審法ヲ制定スルニ付テノ特別理由トシテ擧ゲナイノデアアル、其意味ニ於テ御諒解ヲ請イタイト思フ、尙ホ今日ノ刑事訴訟手續ノ實際上ノ遺リ方ニ付テ色々御論ガアリマシタガ、此點ハ司法當局ニ於テモ種々考慮致シテ居リマス、新刑事訴訟法實施ニ依リマシテ、從來若シ適當デナイ事ヤツテ居ルヤウナコトガアルナラバ、此時一新サレルダラウト思ヒマス、又新刑事訴訟法ガ實施サレマセデモ、所謂人權尊重ノ趣意ニ基イテ幾多ノ手續ガ段々改善サレテ行キマセウシ、又司法當局トシテ其方面ニ

向ッテ努力シテ居ル次第デアリマス、併ナガラ横山君ノ述ベラレタ事柄ノ中、必シモ横山君ノ御意見ニ全部同意スルコトノ出來ナイ點モアル、例ヘバ檢事ト被告人ノ立場ト云フモノガ、民事訴訟法ト全然同一デナイ、民事訴訟ト同ジク、當事者訴訟トハ云ヒマスケレドモ、併ナガラ民事訴訟トハ其實質上ノ關係ガ違フ、檢事ハ公益ノ爲ニ職務ヲ行ヒマスガ、被告人ハ自己ノ一個ノ爲ニ圖ルノデアッテ、檢事ト如ク公益ノ點ハ一切考慮シナ、即チ民事訴訟ノ如ク原告ト被告トノ地位ノアルコトハ同ジデアアル、非常ニ其性質ハ違フ、ソレデアリマス、檢事ト被告人トガ全然對等デアッテ、同ジ様ナ座席ニ着カナケレバイカスト云フコトハ、一概ニハ言ヘナイと思フ、併ナガラ檢事ノ席ヲ如何ニシ、辯護人ノ席ヲ如何ニシ、被告人ノ席ヲ如何ニスルカト云フヤウナコトハ、無論此陪審ノ法廷ヲ造リマス時ニハ、十分ニ考慮シナケレバナラヌ、是等ノ點ニ付テハ、既ニ今日デモ司法當局ニ於テハ色々調査ヲ試ミテ居リマス、人權ヲ尊重シ、人權擁護ノ趣意ヲ全ウシタイト云フ考ニ於テハ、司法當局ハ敢テ人後ニ落チヌノデアリマス、其點ハ十分ニ御諒解ヲ乞ヒマス。

○横山委員 再び質問ハ致シマセマスガ、私ノ要求シマス趣旨ハ、陪審ノ法廷ニ於ケル事柄ハ無論デアリマスガ、現時ノ法廷ニ對シテモ、檢事ノ論告中、被告人ガ起立セネバナラストカ、辯護士ト檢事ノ席ヲ異ニスルト云フヤウナコトハ、甚ダ面白クアリマセヌカラ、是ハ即時ニ私ハ何トカシテ戴キタイト云フノガ、吾々ノ要求ナノデアリマス、陪審ノ法廷ニ於ケル事柄ハ無論デアリマスガ、只今ノ現實ノ法廷ニ對シテモ、ドウカ相當ナル御考慮ヲ煩シタイト云フコトヲ希望致シテ置キマス、ソレカラ國家ノ權力ノ問題、權利濫用ノ問題、是ハ私ハ本案ト至大ノ關係ガアルコト、思ヒマスカラ、司法大臣ガ御出席ノ際ニ、國務大臣トシテ御説明ヲ承ルヤウニ、政府委員カラ御相談ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ尙ホ要求致シテ置キマス、ハ、過日ノ席ニ於キマシテ、從來ノ遺外法官ハ屢々陪審制度ノ利弊ニ關スル取調ヲ致シテ居ル、報告ヲ致シテ居ルト云フコトデアリマシタ、利弊ノ取調ヲ致セバ、無論其報告ガアル筈デアアル、其意見ニ贊成タルト、反對タルト、又現時歐米ノ陪審制度ハ是ナリトスルト、弊アリトスルトニ拘ラズ、サウ云フモノヲ吾々ニ參考ノ爲ニ御提出ヲ願ヒタイト云フコトヲ、委員長ヲ通ジテ御願ヒ致シテ置キマス。

○林政府委員 是迄外國ヘ派遣シマシタ司法省ノ役人、又ハ判事、檢事等ニ陪審制度ノ利害得失ニ付テ十分ノ調査ヲ遂ゲサセマシタ、サウシテ報告ヲ受ケテ居ルコトハ事實デアリマス、併ナガラ其報告ガ必シモ書面ニ載ッテ居ルノデハナイ、口頭デ報告スルヤウナコトガ多イノデアリマス、今

御要求ニ應ジラレルト云フコトヲ御答スルコトハ出来マセ

ス
○鶴澤委員長 後ハ横山君ハ大臣ガ来テカラデスカ、マダアリマスカ

○横山委員 昨年ノ委員會デモ問題ニナッタと思ヒマスガ、尙ホ承テ置キタイノハ第二條デス、第二條ニ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス之ヲ稱シテ法定陪審ト云フコトヲ思ヒマス、所ガ讀シテ見テ第六條ニハ「被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取テ下グルコトヲ得」而シテ取下ゲタル場合ニハ、陪審ノ評議ニ付スルコトハ出来ナイ、ソレカラ四十一條ニハ「第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ」此法定陪審ヲ辭スルコトガ出来ルト云フ規定ト、ソレカラ又辭スルコトヲ告知スルコトガ出来ルト云フ規定、第六條第四十一條トガ、第二條ニ關聯致シテ居ルヤウニ思ヒマス、ソコデ私ノ疑問ガ起リマス、折角第二條ニ於テ、死刑又ハ無期ノ懲役、無期ノ禁錮ト云フヤウナ刑ニ該ル極メテ重大ナル犯罪ニ關シテ、法定陪審ノ原則ヲ立テラレタト云フコトハ、洵ニ結構デアリマス、所ガ本人ガ辭スルコトガ又辭スルコトヲ告知スルコトニナリマス、所ガ本人ガ辭スルコトヲ、法定陪審ノ原則ト云フモノハ、直ニ打壞サレルコトニナリハシナイカと思フ、其譯ハ私ノ經驗ガ間違ッテ居ルカモ知レマセヌガ、吾々ガ實際事案ヲ取扱ヒマシテ、死刑トカ無期刑ニナッテ居ル被告ハ、ドウ云フ風ノ人間デアるかト申シマスルト云フト、無論林府委員等モ長ク裁判所ニ御在ニナリマシタカラ、私等ヨリ以上御經驗ガアルト考ヘマス、死刑無期刑ト云フヤウナ場合ニハ、被告人ハ多クハ無智文盲ニシテ、文字ニモ疎ケレバ世事ニモ疎ク、殆ド白痴ニ近イ者モアル、時ニ山田憲ノヤウナ偉イ學者モアリマス、又政治上ノ犯罪ナドデハ、可ナリ知識ノアル人モ居リマス、ケレドモ、大體ニ於テ人殺ラシタリ、火ヲ放ケタリスル者ハ、死刑ナリ無期刑ニナルト云フヤウナ者ハ、文字モ無ケレバ學問モ無イ、常識モ乏シイ、サウシテ裁判官ノ前ニ出レバ、一モ二モナク裁判官ノ言フコトニ屈服スルコトヲ事柄ガ實際ノ事情デアルト私ハ考ヘル、ソコデ第二條ニ於テ、折角死刑又ハ無期刑ノ爲メ、ドウシテモ是ハ民衆的ノ裁判ヲ行ハナケレバナラス、常職ノ裁判官以外ニ、民情ニ通ジタル常識ノ陪審員ヲシテ事案ノ審判ニ參與セシメルノ必要ガアルト云フ原則ヲ立テラレタ、所ガ辭スルコトヲ得、若クハ辭スルコトガ出来ルト云フコトヲ告知スルコトニナレバ、時ニ被告人トシテハ、或ハ親戚故舊ノ通告デ法廷陪審ノ効果ヲ減却ス

ルヤウナ事モアリマス、又裁判官ガ衣冠ヲ正シテ、ドウダオ前ハ分リ切ッテ犯罪デアるか、陪審ヲ廢メタラドウカト云フ様ナ言葉ヲ以テシテモ、或ル態度デモ、被告人ヲシテ陪審ヲ受クルノ意思ヲ顯ヘサシムルコトハ易々タル事柄デアラウト思ヒマス、斯ウ云フ重大ナル原則ヲ出シマシタ以上ハ、此原則ヲ何處迄モ貫徹スルヤウニ法律ヲ立テナケレバナラスト思ヒマス、此六條ト四十一條ヲ設ケテ、法定陪審ト云フ重大ナル本法ノ特色ト云フテモ宜イ、ソレガ打壞ハサレルヤウナ意味ヲ六條及四十一條ニ依ッテ御設ケニナッタル理由ヲ承リマス、ソレトモ司法當局デハ、死刑又ハ無期刑ノ懲役ニ該ル犯罪事件ハ、ソナナ馬鹿バカリデナイ、ソナナ事ハ裁判官ガ注意シテモ、ソレデ廢メルモノデナイト云フ御確信デモアリマスガ、私ハ此點ニ付テハ、寧ロ六條四十一條ヲ無クシタ方ガ本案ノ趣旨ニ適シハシナイカと思ヒマス

○林府委員 此法案ニ於テ法定陪審事件ニ付テ、被告人ガ之ヲ辭スルコトガ出来ルト云フコトニ定メマシタノハ、要スルニ陪審ヲ被告人ニ無理ニ強イナイ、被告人ガ常識裁判官ノ裁判ヲ受ケタイト云フ場合ニ於テモ、必ズ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ云フコトヲ法律ガ強制スルノハ穩當デナイト云フ趣意カラ出テ居リマス、ソデ、是モ此法案ノ一ツノ特色デアリマス、併ナガラ横山君ハ辭退ヲ認メルコトニナルト、實際ノ運用ニ依ッテ法定陪審事件ヲ無クスルコトガ出来ル弊ガアルト云フ御心配デアリマスガ、サウ云フコトハ無イト思ヒマス、此法案ニ於テ明カナル如ク、公判準備ノ期日ニ於テハ、辯護人ガ列席シナケレバ手續ハ出来マセヌ、必ズ辯護人ガ傍ニ附テ居ル、サウシテ被告人ノ利益ヲ保護スルコトガ出来ルトデアリマス、辯護人ガ十分注意ヲ與ヘル機會ガアル、裁判所ガ無理ニ被告人ニ辭退セシメルト云フコトハ、實際ニ於テモ想像ガ付カナイ事デアリマス、又辯護人ガ常ニ列席シテ居リマスカラ、サウ云フ事ガ行ハルベキ管ガナイ、ソレデアリマスカラ今御心配ノヤウナ事ハ、斷ジテ無イト云フ確信ヲ有ッテ居ルノデアリマス、殊ニ横山君ハ法定陪審事件ノ被告人ハ皆馬鹿見タイナ者デアルト云フコトヲ言ハレマスガ、サウデナイ、通貨偽造罪トカ、文書偽造罪トカノ或種ノモノハ、法定陪審デアアル、從テ智慧ノ無いボンヤリシタ被告人ノミガ法定陪審事件ニ現ハレルト云フ關係デナイ、ソレハ何レニシテモ先程申上グルヤウナ關係ニナッテ居リマス、御心配ノヤウナ事ハ全ク無イト信ジマス

○横山委員 死刑又ハ無期ノ刑ニ該ル者ガ通貨偽造ナドニアルト云フ御話デアリマスガ、ソレハ極メテ少ナイ、私共辯護シタコトハアリマセヌ、大抵放火殺人ニ極ッテ居リマス、ソレデアリマスカラ、矢張無智無學ノ者ガ多ク適用ヲ受ケルト云フコトハ、私共確信シテ居リマス、強制セザルコトガ

特徴デアッテ、辯護人ガ附テ居ルカラ、裁判官ノ意思ニ依ッテ廢メルヤウナ場合ハ絶對ニ無イト云フガ、ソレガアル、吾々ノ經驗ニ依ルト、控訴院ノ法廷デアリヤウニ實際シマス、地方カラ折角控訴院ニ來テ審判スル場合ニ、裁判官ガ分リ切ッテ事件ダカラ廢メタラドウダラウト言ハレル場合ガアリマス、ソレハ當人ニ好意ヲ以テマアリマセウガ、サウスルト被告人ハ後ヲ見テ、ドウシマセウ、勝手ニヤッタ宜カラウト勸メラシム行カナイ、ソレデハ廢メマス云フ辯護人ガ居ルラスハ餘リ影響ガ無い事デアリマスカラ、ドウモ今私ノ申サヤウニ、六條ト四十一條ハ無い方ガ宜クハナイカト云フコトヲ意見シテ申上ゲテ置キマス

○原委員 私ハ本會議並ニ委員會ニ於テ司法大臣ガ御述ベニナッテ事ニ牽連シテ御尋シテ置キタイト思ヒマス、先ヅ順序トシテ本案ノ附則ニ規定シテアル本法ノ施行ニ關スル件デアリマスガ、是ハ何レ勅令ヲ以テ其時々御定メニナルコトデアリマセウガ、此附則ニ掲ゲテアル本法施行ノ期日ハ各條ニ付テ各條文ニ付テ勅令ヲ以テ之ヲ定メル、斯ウ云フ規定ニナッテ居リマスガ、此本法ノ施行期日ニ付テ、是迄概括的ノ事ハ御述べニナッテヤウニモ見テ居リマスガ、此點ニ付テ一應具體的ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、ソレハ本法ノ期日並ニ其場所、此兩點ニ付テアリマス

○岡野國務大臣 只今ノ原君ノ御尋ハ、蓋シ斯ウ云フ御趣旨デアルト私ハ解スルノデアリマス、ソレハ此陪審法通過ノ曉ニ於テ、何レノ時ヲ以テ施行期日トスル計畫デアるかト云フ御趣意デアラウカト思ヒマス、是ハ前ニモ度々御説明致シタコトデアリマス、殊ニ仰ル迄蒙ッテ何ヤラ強イテ御説明申シタヤウニ御聽キニナッテ方モアル位デアリマスガ、大體ノ計畫ヲ申上ゲマスレバ、今日ノ所ニ於テハ、大正十六年度ニ於キマシテ陪審法ノ一部ヲ施行スルノデアリマス、其一部ヲ施行スルニハ、大正十七年ニ至リマシテ法律全ヲ施行スルノ準備トシテ、一部ヲ施行シナケレバナラヌノデアリマス、即チ大正十七年ヨリ法律全部ヲ全國ニ施行スルト云フ計畫ヲ有ッテ居ルノデアリマス、是ハ念ノ爲メ重複ハ厭ハズ申上ゲテ置キマスルガ、政府ト致シマシテハ、陪審法通過ノ曉ニ於テハ、成ベク早ク之ヲ實施シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、是ガ陪審法施行ノ爲ニ要スル司法官ノ養成、ソレカラ陪審法施行ニ付陪審部ヲ設ケルガ爲ニ、全國ノ地方裁判所ヲ殆ド例外ナク増築セネバナラヌト云フ必要ガアルノデアリマス、是ガ爲ニ大正十七年度ヨリ早ク之ヲ施行スルコトヲ云フコトガ、甚ダ困難ナ譯デアルノデアリマス、而シテ此期間ニ於テ十分ニ陪審法ノ精神ヲ國民一般ニ周知セシメルト云フコト、同時ニ又司法官ヲ此機會ヲ利用致シマシテ、成ベク多數ヲ外國ニ出シマシテ、而シテ陪審法

ヲ如何ニシテ實際ニ行ヒツ、アルカト云フ其實況ヲ研究セシメル、而シテ其者方順次ニ歸朝ノ曉ニ於キマシテ、矢張内地ニ於ケル所ノ司法官ニ其實地ノ事ヲ熟知セシメル、斯ウ云フ計畫デアアルノデアリマス、最モ困難ヲ感ジマスノハ司法官ノ養成デアリマス、只今ノ計畫ニ依リマス、陪審法施行ノ爲ニ約二百五十人ノ司法官ヲ必要トスルノデアリマス、此二百五十人ノ司法官ヲ得マスニ付テハ、原君モ御承知デアリマセウガ、年々六七十人ノ退官者ガ出來ルノデアリマス、其退官者ヲ補充シツ、一方ニ於キマシテ約三百五十人ノ司法官ヲ養成セネバナラスノデアリマス、採用セネバナラスノデアリマス、是ガ最モ年數ヲ要スル主ナル理由デアアルノデアリマス、大體ノ計畫ニ付キマシテハ、最初ニ申述ベマシタ如ク、大正十七年度ヨリ法律全部ヲ全國ニ施行スル積リデアリマス、而シテ是ガ爲ニハ大正十六年度ニ於キマシテ一部ヲ施行シテ置ク必要ガアルノデアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒマス

○岡野國務大臣 左様デアリマス、全國ノ地方裁判所ニ陪審部ヲ設置致シマシテ、固ヨリ閑散ナ場所ニ於キマシテハ、一部ノ増設ノ事足ルト思ヒマス、併ナガラ裁判所ニ依リマシテハ、或ハ二部三部——東京ノ如キハ、事ニ依リマスレバ五部六部ト云フヤウナ部ヲ設ケル必要ガアルカモ分リマセウガ、兎ニ角主義ト致シマシテハ、ドウシテモ全國ノ地方裁判所ニ陪審部ナルモノヲ設置セネバナラス必要ガアルノデアリマス

○岡野國務大臣 左様デアリマス、全國ノ地方裁判所ニ陪審部ヲ設置致シマシテ、固ヨリ閑散ナ場所ニ於キマシテハ、一部ノ増設ノ事足ルト思ヒマス、併ナガラ裁判所ニ依リマシテハ、或ハ二部三部——東京ノ如キハ、事ニ依リマスレバ五部六部ト云フヤウナ部ヲ設ケル必要ガアルカモ分リマセウガ、兎ニ角主義ト致シマシテハ、ドウシテモ全國ノ地方裁判所ニ陪審部ナルモノヲ設置セネバナラス必要ガアルノデアリマス

○原委員 昨年本案ト略、同一ナル案ガ御提出ニナッタコトハ御承知ノ通りデアリマスガ、本年提案ニナリマシタ此陪審法案ノ施行ニ關スル御見込ト、昨年ノ政府ニ於テ計畫シタル御見込トノ間ニ、何カ相違ガアリマセウカ、矢張昨年モ斯ウ云フ御計畫デアッタデゴザイマセウカ

○林政府委員 昨年ノ計畫ノコトハ、今日御答スル必要ガアルカドウカ存ジマセウガ、昨年モ私ハ關係シテ居リマシタラ、簡單ニ申上ゲテ置キマスガ、大體ニ違ヒハアリマセウ、唯、昨年ハ大正十七年度ヨリ今少シ早ク實施シタイ、斯ウ云フ考ハ持ッテ居ルノデアリマス、是ハ大臣ガ仰セニナリマシタ通り、色々ノ關係ヲ精密ニ調査致シマス云フ、其以前ニ於テハ準備ガ到底完ウスルコトガ困難デアアル、斯ウ云フコトガ明ニナリマシタノデ、只今大臣ノ説明サレタヤウニ、十六年ニ一部ヲ行ヒ、十七年度ヨリ全部ヲ行フト云

フ、斯ウ云フコトニ極リマシタ次第デアリマス

○原委員 本法ノ施行ニ關スル計畫ノ御見込ニ付テハ、只今御答辯ヲ得テ確ニ了承致シマシタノデアリマスガ、次デ司法大臣ニ確メテ置キタイノハ、本法提案ノ理由デアリマス、本案提案ノ理由ニ付テハ、曩ニ司法大臣ハ本會議並ニ本委員會ニ於テ、横山君ノ質問ニ對シ縷々御述ニナッテ居ルノデアリマスガ、所デ隨分詳細ナル細カナ點ニマデ御答辯ニナッタコトヲ了承シテ居ルノデアリマスガ、其結果ニ付テ本員ハ多少疑ヲ抱イタ點ガアルノデアリマス、其點ニ於テ二三是ハ重要ナ點デアリマスルカラ、更ニ確メテ置キタイト思フノデアリマス、ドウモ私共ノ考ヘテ居ル所ニ依リマスト云フト、申スマデモナク、立憲政治ハ——就中我國ノ立憲政治ハ、民意ヲ本トシタル天皇ノ思召ニ依ッテ行ル、所ノモデアアルト思フ、是ハ殆ド誰モ異論ノ無イ所ト思フノデアリマスガ、デアリマスカラ、國家ノ立法權ガ國民代表ノ府デアアル所ノ帝國議會ノ議ヲ待テ行ル、以上ハ、ドウシテモ其民意ヲ本トシテ制定セラレタ所ノ本法ノ實行ニ當リ、國家ノ司法權ニハ國民ガ參與スルコト云フコトハ、是ハ我立憲政治ノ當然ノ運轉、即チ運ビ行キデアリマシテ、又立憲治下ノ國民ノ當然ノ要求デアラネバナラスト思フノデアリマス、今日我ガ帝國議會ノ少數黨ノ諸君カラ旺ニ主張セラル、所ノ普通選舉ハ、我ガ國民ノ聲デアアルト、斯ウ云フ風ニ申シテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ縱令此制限選舉ニ致シマシテモ、兎ニモ角ニモ我國デハ明治二十三年以來帝國議會ガ開ケテ、兩院ニ依ッテ貴族モ平民モ、學者モ、或ル特殊ノ納稅資格者モ、凡テ全國國民ガ代表セラレテ居ルノデアリマス、所ガ獨リ我ガ帝國ノ司法權ニ至リマシテハ、吾々國民ノ參與機關ナルモノガ未ダ創設セラレテ居ナイノデアリマシテ、隨テ此陪審制度ノ樹立ナルモノハ、此政治事業デアアル普通選舉ナドヨリハ、目下ノ我ガ政治ニ於テ最モ急務ナル仕事デアアルト本員共ハ解シテ居ルノデアリマス、殊ニ立憲政治ニ伴フ所ノ所謂法治國家ニ於テハ、唯、法令ナルモノヲ制定シテモ、之ヲ執行スルニ當テ、國民ノ幸福ノ爲ニ制定シタル法律ヲ旨ク活用スルコトガ出來ナイトキニハ、折角國民ノ福利ノ爲ニ國家ノ立法權ニ國民ガ參與致シマシテモ、遂ニ其目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フヤウナ筋合ニナルノデアリマスカラ、陪審制度ハ立憲政治ナルモノト全ク其歸趣ヲ同ウシテ居ルモノデアアルノミナラズ、寧ロ立憲政治ヨリカ、陪審制度ノ樹立ナルモノハ先ダ、ネバナラスト云フヤウナ思想ヲ吾々ハ持ッテ居ルノデアリマス、現在英國ノ如キ、申スマデモナク立憲政治ヨリカ先ニ此陪審制度ガ發達シテ居ルト云フコトヲ常ニ耳ニシテ居ル位デアアル、此見地カラ觀スト云フト、本案ノ實施ノ急務ナルコトハ、私ハ非常ナ

急務中ノ急務デアルト考ヘテ居ル所デ、司法大臣ノ本會議並ニ本委員會ニ於テノ御説明ヲ承リマス、多少吾々ノ考ヘテ居ル本案施行ノ急務ト云フコトニ付テ、或ハ見解ノ異ニシテ居ナイカト云フヤウナ感ガ起クノデアリマス、ソレデ先ヅ第一ニ便宜ノ爲ニ項目ヲ分ケテ御尋シテ置キタイト思フノデアリマスガ、現在少數黨ノ盛ニ主張シテ居ル國民ノ聲デアアルト稱スル所ノ普通選舉ナルモノト、此陪審制ノ樹立トハ一體ドッテガ先ヅ第一ニ御尋ヲ致シテ置キマスデアリマセウカ、此點ヲ先ヅ第一ニ御尋ヲ致シテ置キマス○鶴澤委員長 一寸大臣ニ申上ゲマスガ、先刻横山君ノ御尋デ、普通選舉ハ國民ノ聲デアアル、ソレデ之ニ對シテ委員會ヲ設ケレタヤウデアアルガ、未ダ政府ニ於テ決定サレズニアルヤウダ、此問題ヲ解決スルノ、陪審制度ノ解決ニ對スル政府ノ所見如何ト云フ趣旨ノ御質問デアリマス、ソレヲ大臣ヨリ御答ヲ願ヒタイト云フコトデアリマシタ

○岡野國務大臣 普通選舉ナル制度其モノニ對シテハ、私ヨリ致シマスコトハ甚ダ困難デアリマス、併ナガラ陪審制度ヲ施行スルガ我ガ國民ノ要求デアアルト云フコトハ、幾度カ私ガ此席ニ於テ明言シテ居ル所デアリマス、曩ニモ申述ベマシタ通り、陪審法通過ノ曉ニ於テハ、成ベク速ニ之ヲ施行シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、若シ司法官ノ養成ニシテ、裁判所ノ建築事業ニシテ、其他陪審制度ノ施行ノ準備ガ速ニ成ルモノデアリマスルナラバ、成ベク速ナル時日ニ此陪審制度ヲ實施致シタイ云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ成ベク速ト云フコトノ中ニハ、マダ急務中デアリマスルケレドモ、同時ニ——原君ノ御質問中ニモゴザイマシタ通りニ、一ダビ施行シタ曉ニ於テハ、十分ノ効果ヲ收ムルト云フコトヲモ同時ニ考慮セネバナラスノデアリマス、悔ヲ他日ニ貽サスダケノ用意ヲ私ハ必要トスルト考ヘテ居ルノデアリマス、凡テノ施行ノ條件ガ備リマスレバ、其備タ曉ニ於テハ、躊躇スル所ナク急速ニ此陪審法ヲ施行セネバナラス必要ナルコトハ、政府ニ於テモ十分ニ認メテ居ルノデアリマス、此事ハ度々繰返シテ私ハ申述ベテ居ルノデアリマス、普通選舉ノ事ニ至ッテハ、私ハ自己ノ職權ノ外ニ在ルコトデアリマスルカラ、政府ヲ茲ニ代表シテ申上ゲルト云フコトハ、甚ダ困難デアリマスルケレドモ、併ナガラ普通選舉ノ事ニ付キマシテハ、首相モ既ニ施政ノ方針ノ中ニ述ベラレタコトヲ記憶致シテ居ルノデアリマス、又内務省ニ於キマシテハ、普通選舉ノ制度——選舉法ノ改正ヲ調査スルト云フガ爲ニ、特ニ委員會ヲ設ケテ、今ヤ其調査中ニ屬シテ居ルノデアリマス、何レノ時ニ至リマシテ此調査ガ完了シ、如何ナル順序ヲ經テ法案ノ制定ニ至ルカト云フコトハ、私トシテハ能ク其事情ヲ承知致シマセウケレ

ドモ、併ナガラ其選舉法ノ改正其モノニ對シテ、政府ニ於テ
委員會ヲ設置シテ調査シテ居ルコト云フ時デアリニモ拘ラズ、
陪審法ヲ爰ニ提出致シマシテ、御協賛ヲ經シテ居ル所
ノ趣旨ヨリ考ヘマシレバ、此選舉法ノ改正事業ノ事ハ、ソレ
ニ關係ナク陪審法ノ施行ヲ以テ急務ナリト考ヘテ居ルコト云
フ所ノ趣旨ガ、私ハ御諒解ニナルデアラウト思フノデアリ
マス

○鵜澤委員長 原君マダ澤山アリマスカ

○原委員 マダアリマス

○鵜澤委員長 サウスレバ如何デスカ、午後ハ決議案ガア
リマスケレドモ、採決前ニヤッテモ差支アリマスマイ、ドウ
デセウ

〔差支アリマセス〕ト呼フ者アリ

○鵜澤委員長 ソレデハ之デ休憩シマシテ、一時半カラ……
午後零時十二分休憩

午後一時五十五分開議

○鵜澤委員長 午前ニ引續イテ陪審法案ノ委員會ヲ開キマ
ス、原君

○原委員 先程司法大臣ノ御答辯ニ依ッテ、此普通選舉ト本
案ノ關係ニ付テノ御意嚮ハ、稍々諒解スルニ足ツタノデアリ
マスガ、司法大臣ハ普通選舉ノ事ハ今自分カラ政府ヲ代表
シテ何トモ申スコトガ出來ナイ、去ナガラ現ニ本案ヲ提出
シタ以上ハ、普通選舉ヨリカ陪審法ノ制定ノ方ガ政府トシ
テハ緊要ナモノト認ムルニ足ルト云フコトヲ諒承シテ貰ヒ
タイ、斯ウ云フ御答辯ノヤウニ解シタノデアリマスガ、果シ
テ然リトセバ、陪審法ハ今日叫バル、所ノ普通選舉ヨリカ
急務デアルト云フコトヲ政府ニ於テ御認ニナツタト云フコ
トハ、定ニ本員等ノ諒解スル所デアリマスルガ、茲ニ疑ノ起
ルノハ、成程提案其物ニ付テハ、司法大臣ノ仰シヤルヤウニ
陪審法ガ兎ニ角提案ニナツテ居ル、政府ガ急務デアルト考ヘ
ラレテ御提案ニナツタノデアリマスカラ、其點ハ諒承致シマ
スケレドモ、先程確メテ置キマシタヤウナ本案ノ施行期日
ガ、今カラ尙ホ四五年先ニ屬スルノデアリマス、サウスレト
云フト、司法大臣ノ先程ノ言ノ如ク、兩者ノ急不急ノ御意見
カラ略々想像スルコトニ難カラザルノハ、要點ハ即チ實施
ノ問題デアリマス、少クトモ今後提案セラルベキ普通選舉
ノ法律ナルモノハ、其實施ハ矢張司法大臣ノ御意見ノ如ク、
陪審法ガ先デアッテ、普通選舉ニ關スル改正法律案ト云フモ
ノ、實施ハ、此陪審法ノ實施ニ遅ル、ト云フコトニ諒承致
シテ宜シイノデアリマセウカ、此點ヲ確メテ置キマス

○岡野國務大臣 先刻午前ニ原君ノ御質問ニ對シマシテ御
答ヲ致シマスル當時、總理大臣ノ施政ノ方針ニ關スル演說

ナルモノヲ十分ニ記憶ガナカッタノデアリマス、是ニハ私ガ
茲ニ改メテ申上ゲル必要モ無イカトハ存ジマスケレドモ、
此總理大臣ノ演說中ニハ、我國ニ於ケル諸般ノ制度施設等
ニ於テ、早晚改革ヲ要スルモノハ少クナイ、併ナガラ是等ノ
改革ハ、國家永遠ノ福利ヲ理想トシテ、而モ現在ノ制度組織
ヲ基礎トシテ爲スベキモノト信ズル、國情ヲ顧ミズ、急激ナ
ル改廢ヲ爲スト云フガ如キハ、最モ慎マナケレバナラヌ次
第ト存ズル次第デゴザイマス、總テニ涉リ漸ヲ追ヒ改善ノ
歩ヲ進メテ行クベキモノト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、
彼ノ選舉法改正問題ノ如キモ、政府ハ特ニ十分ナル注意ヲ
拂ヒマシテ、之ガ爲ニ既ニ調査會等ヲ設ケマシテ、現ニ改竄
ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス、而シテ其陪審法案ニ關ス
ル事ニ付キマシテハ、其他時勢ノ變遷ト人文ノ發達トヲ察
シマシテ、陪審法案ノ如キモノ之ヲ今期議會ニ提出スルノ考
ヲ持ッテ居ル次第デゴザイマス、斯ウ云フコトヲ述ベラレテ

居ルノデアリマス、デ先刻モ申述ベマシタル如クニ、選舉法
ノ改正問題ハ、即チ漸ヲ追フテ十分ノ調査ヲ爲シテ、然ル後
ニ此選舉法ノ改正問題ニ付テハ、茲ニ解決ヲ告ゲルモノデア
ルト云フコトニ、此趣旨ハ、此中ニ明瞭デアルト私ハ考ヘル
ノデアリマス、又既ニ選舉法ノ改正問題ニ爲ニハ、特ニ委員
會ヲ組織シテ今委員ノ手ニ於テ調査中ニ屬シテ居ルノデア
リマスカラ、此調査ガ何レノ時ニ成立ツモノデアルト云
フコト、茲ニ如何ナル法案ガ愈々制定セラレタルコト云
フニ至ルカト云フコトハ、直ニ今日ヲ以テ私ハ豫期スルコト
ハ出來ナイト思フノデアリマス、ソレニモ拘ラズ所謂時勢
ノ進展ト、人文ノ發達トヲ察シテ、陪審法ノ如キハ既ニ今期
議會ニ提出スルモノト云フコトヲ確定シテ總理大臣モ述ベラ
レテ居ルノデアリマス、而シテ現ニ其法案ハ提出サレテア
リマス、之ヲ次ニ見マシテモ——而モ陪審法施行ノ曉ニ於
テハ、成ベク之ヲ速ニ實施シタイト云フ考ハアルノデアリ
マスケレドモ、是ガ準備ニ多少ノ歲月ヲ要スルト云フコト
ヲ申上ゲテ置キマス、精神ニ於キマシテハ成ベク之ヲ速ニ
實施シタイトデアリマス、併ナガラ只今ヨリ此選舉法ノ改
正ガ如何ニ解決セラレ、何レノ時期ニ提出ニ至ルデアラ
ウカト云フコトハ、是ハ今日ヨリ私ハ確ニ申上ゲ兼ネルト
思フノデアリマス、其問題ト離レマシテ、陪審法ヲ施行スル
コトハ急務ナリトシテ居ル精神ダケハ、是ハ法案ノ提出其
モノニ依ッテモ明瞭デアル、只今政府ノ意ノ存スル所ハ其間
ニ在ルノデアリマスカラ、之ニ依ッテ私ハ御諒承ヲ願フヨリ
外ハナイノデアリマス、進ンデ政府ハ陪審法ノ施行ト、選舉
法ノ施行ト何レガ先ニナリ、何レガ後ニナルカト云フコト
ハ、今日何カ見込ガアルカト云フ御話デアリマスガ、ソレヲ
比較シテ私ハ只今申上ゲルコトハ甚ダ困難デアリマス、唯、

政府ハ今日迄ノ施設、並ニ總理大臣ノ施政ノ方針ニ依ッテ
見マスレバ、陪審法ノ施行ヲ急ナリトスルト云フコトニ於
テ、而シテ選舉法改正ハ漸ヲ追フテ、所謂十分ナル調査ヲ爲
シタニ上テ施行スルト云フノデアリマスカラ、ソレヨリ以上
ニ進ンデ申上ゲ兼ネルコトハ宜シク御諒承ヲ願ヒタイト思
フノデアリマス

○原委員 本員ノ御尋致シタ所ハ、主トシテ此法案ノ提出
ノ理由ト、本案ノ實施ノ點ト、而シテ其提案ノ理由トハ、是
迄司法大臣ガ屢々御聲明ニナツタ所ニ依レバ、本案提出ノ理
由ハ、即チ陪審制ノ樹立ナルモノハ立憲政治ノ本旨ニ適フ
モノデアル、斯ウ云フ理由ヲ御述ニナツテ居ルノデアリマシ
テ、立憲政治ニ適フ所ノ本案ハ、其根源ハ本員等ノ解スル所
ニ依レバ、即チ立憲政治ノ基本ノ法律デアアル所ノ選舉法、國
民ノ代表ヲ選ブ所ノ選舉法、是ト非常ニ關係アル法案デア
ルト云フコトハ申上迄モナイノデアリマス、否寧ロ本員等
ノ解スル所ニ依レバ、先程來申上ゲマシタ如ク普通選舉等
ノ法律カラ見テハ、本案ガ先立ツベキ性質ノモノデアアル、此
點ニ於テハ司法大臣モ同一御考ヲ持ッテ居ラル、コトヲ、
先程來御答辯ニナツテ居ル次第デアリマス、デ果シテ然リト
セバ、成程普通選舉ノ法案ニ付テハマダ政府ハ提案ヲシナ
イノデアリマシテ、隨テ多ク未來ヲ御語リニナルト云フ譯
ニ行キマセウセウケレドモ、本員ハ詰リ本案ノ附則ニ牽
聯シタル施行期日ガ四五年先キノ問題デアリマスルガ故
ニ、此質問ヲ爲ス所以デアアルノデアリマス、即チ普通選舉
リハ本案ノ方ガドウシテモ實施ヲ早クシナケレバナラナイ
性質ノモノデアアルト私共ハ確信致シテ居ルノデアリマス、
其點ニ於テ司法大臣モ同意見デアアラウト思フノデアリマス
ケレドモ、後ニ尙ホ質問ヲ續ケル上ニ於テ、前提トシテ此點
ヲ確メ置クベキ必要ガアルノデアリマス、デアリマスカラ
何時何日普通選舉ヲ提案スルトカ、或ハ議員提出案ニ賛成
スルトカト云フコトヲ聽クノデハナイノデアリマス、少ク
トモ政府ハ本案ヲ御提出ニナツタノデアリカラ、此實施ニ關
シテハ普通選舉ノ實施ニ先立ツベキ性質ノモノデアアルト
カ、或ハナイトカ、此御意見ヲ承ッテ置キタイノデアリマス

○岡野國務大臣 昨ハ午前モ申述ベマシタル如ク、選舉法
ノ改正問題ガ何レノ時ニ至ラデ調査ヲ了シ、何レノ時ニ至
テ施行セラレタルカト云フコトハ、今日ニ於テハ未ダ知ル
ベカラザル事デアル、其知ルベカラザルモノヲ大正十七年
ヨリ施行セントスル所ノ計畫アル陪審法ト比較シテ、何方
ガ先キニナルカ、是ハ何トモ私ハ御答致シ兼ネルノデアリ
マス、併ナガラ先刻モ度々申述ベル如クニ、選舉法ノ改正ハ
漸ヲ追フテヤルベキモノデアアルト云フコトハ總理大臣ノ
施政ノ方針ニ關スル演說ニモ明カデアリマス、陪審法ヲ提

出スルハ急務ナリト信ズルガ故ニ爰ニ提出致シタルノデアリ
マス、之ニ依テ免モ角モ政府ガ陪審法ヲ施行スルコトノ急
務ナルヲ認メテ居ルノデアルト云フ趣意ヲ、私ハ御諒解ヲ
願ヒタイト思ヒマス、自ラ其結果ニ於キマシテハ、選舉法ノ
方ガ後ニナルデアラウト思ヒマス、併ナガラ選舉法ノ改正
事業ノ未ダ成ラザル何レノ時ニ提案スルカ分ラナイ今日ニ
於テ、ハッキリシタコトヲ御答シロト云フ御話デアリマスレ
バ、私限リヲ以テ御答スルコトハ出来マセシ、又私限リデ
御答スル範圍ニ於キマシテハ、爰ニ確言スルコト云フコトハ
出来マセマス、左様ニ御承知ヲ願フヨリ外ナイ

○原委員 諒解致シタルデアリマスガ、只今ノ司法大臣ノ
御答辭ニ依リマシテ、普通選舉ナルモノハドウシテモ本案
ノ實施ヨリカ遅ル、性質ノモノデアル、何トナレバ本案ハ
既ニ此提案ノ理由ガ急ニ迫ラレテ、實施ガ急ニ迫ラテ居
ルガ故ニ、一方ノ提案ノ無イ今日ニ於テハ、ドウシテモ斯ク
アラネバナラスト斯ウ云フ御意見ヲ伺ヒマシテ、確ニ諒承
ヲ致シタルデアリマス、蓋シ半程御讀ニナタ所ノ總理大臣
ノ施政ノ方針ニ關スル演說ニ依リマシテモ、普通選舉ナル
モノハ調査中デアル、社會ノ急激ナル此制度ノ急激ナル
改革ニ付テハ大ニ考慮ヲシナケレバナラナイ、陪審法ナ
ルモノハ急務ヲ感ジテ居ルノデアル、斯ウ云フ其趣意ノ演
說ニ依リマシテモ、司法大臣ガ先程來之ニ裏書ナシタコト
ハ洵ニ其通りデアルト思フノデアリマス、デスノ如ク此總
理大臣モ御認ニナタテ居ル本案デアル以上ハ、大正十七年度
カラ本法ヲ全國ニ施行スルコト云フコトニ付テハ、是ハ總理
大臣初メ政府ハ既ニ確定議ヲセラレタモノデアリマセウ
カ、ドウデアリマセウカ、其點ヲ伺フテ置キタイ

○岡野國務大臣 陪審制度施行ノ計畫ノ事ハ度々申上ゲマ
シタ事デアリマス、政府ノ意ハ一應斯ノ如クニ決定シ
テ居ルノデアリマス

○原委員 更ニ此第二段ニ進ミマシテ、司法大臣ハ本案提出
ノ理由トシテ本會議ニ於テ「政府ハ陪審制度ヲ立テマシテ司
法制度ノ完備ヲ圖リマスルコトハ、今日ノ時勢ニ於キマシ
テ最モ必要ナリト認メタルデアリマス」云々ト云フコトヲ
前提トセラレテ、次デ此政府ガ其制度ヲ採用スルコトノ必
要ト認メラレタル理由ト致シテ「司法事務ニ關シマシテモ
或ル範圍内ニ於キマシテ國民ヲシテ之ニ參與セシムルコト
ガ、立憲政治ノ本旨ニ適フ所以ナリト存ジマス、殊ニ最近
人文益ノ發達スルニ伴ヒマシテ、獨リ司法事務ニ關シテノ
ミハ依然トシテ國民ヲシテ無關係ナル地位ニ置カシムルコ
トハ、司法制度ト致シマシテハ十全ナリト申スコトハ出来
ナイノデアリマス」云々ト御演說ニナタテ居ルノデアリマス
ガ、其御演說中ニ所謂司法事務ニ關シテト云フ、司法事務

ト云フコトハ如何ナル事ヲ指示セラレタルノデアリマスル
カ、又司法大臣ノ見テ以テ、此陪審制度ガ立憲政治ノ本旨ニ
適フ所以ナリト言ハレタ其趣意ハ、如何ナル御趣意デアリ
マセウカ、其點ヲ承テ置キタウゴザイマス

○岡野國務大臣 司法事務——司法ト云フ文字ヲ用キマシ
タルハ、是ハ立法行政ニ對シテ司法ト云フ文字ヲ用キタ
コトニ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス、既ニ立法行政
ノ如キハ、國民ノ參與ヲ認メテ居ルノデアリマス、ソレニ對
シテ獨リ司法ニ關シテ國民ヲ參與セシメナイト云フコトハ
ナイト、斯ウ云フ意味ニ於テ司法ト云フ意味ヲ用キタノデ、
要スルニ立法行政ニ對スル所ノ言葉ト云フコトニ御承知ヲ
願ヒタイノデアリマス、而シテ如何ナル司法ニ關シテ陪審
制度ガ行ハル、モノデアアルカト云フコトハ、是ハ陪審法ノ
内容ニ依テ決定マルノデアリマス、言葉ト致シマシテハ立法
行政ト云フニ對シテ、司法ト云フ文字ヲ用キタト云フニ過
ギナイノデアリマス、ソレカラ或ル範圍ニ於キマシテ國民
ヲ參與セシムルコトハ立憲政治ノ本旨ニ適フ所以デアリ
云フコトヲ申シマシタルモノハ、此司法權ノ運用ニ關シマシ
テ國民ヲシテ參與セシムルコトハ、元來國民ノ參與ニ依テ國
務ヲ遂行セントスル立憲政治ノ本旨ニ適フ所以デアリト云
フ意味デアリマス、立憲政治ノ本旨ハ即チ國民ノ參與ニ依
テ遂行スルコトハ申シマデモナイノデアリマス、而モ終リ
ニ原君ハ御略シナリマシタケレドモ、殊ニ最近人文益ノ
發達スルニ伴ヒマシテ、國民ノ國務ニ參與シマスルコトハ、
漸次其範圍ヲ擴メマスル傾向アルノ時ニ當リマシテ、單リ
司法事務ニ關シテノミハ依然トシテ國民ヲシテ無關係ナ
ル地位ニ置クコトハ、司法制度トシテ十全ナルモノデア
ナイト云フコトヲ私ハ述べタ積リデアリマス、字句ハ速記録ト
比較ヲ致シテ見マセスカラ、或ハ其文字ガ落チテ居ルカモ
知レマセウガ、此處ニ私ノ當時述べマシタ演說ノ草稿ガア
リマスガ、其草稿ニ依テ確ニ私ハ左様ニ述べタ記憶シテ
居ルノデアリマス、即チ之ヲ以テ見マスト、所謂國務ニ對シ
テ國民ガ參與シテ、國民ノ參與ニ依テ國務ヲ遂行スルノガ
立憲政治ノ本旨デアル、故ニ今日ニ於テハ司法事務ニ付テ
モ、法律ノ定ムル或ル範圍ニ於テ國民ヲ參與セシメナケレ
バナラス、此故ニ陪審制度ヲ布イテ所謂裁判ニ與カラシム
ルコトガ、急務デアル、斯ウ云フ意味ニ私ハ申述べタ積リデ
アリマス、只今モ矢張同様ノ考ヲ持テ居リマス

○原委員 能ク諒解致シマシタガ、サウスルト 司法大臣ノ
述べラレタ司法事務ト云フ文字ハ憲法ニ規定シテ居ル司法
權ト云フコトニ諒解シテ宜シト云フコトデアラウト思ヒ
マスガ、結局サウデゴザイマス、ドウデゴザイマスカ

○岡野國務大臣 私ハ憲法上ノ意味ニ付テ、司法權トハ如

何ナル意味デアアルカト云フコトハ是ハ多少議論ガアルカト
存ジマス、成ベクソレハ避ケル方ガ宜シト思ヒマスガ、兎
ニ角此處デ申スノハ先刻申述べタ通り、司法ト云ウタノ
ハ立法行政ニ對シテ申シタルノデアル、私ノ考フル所デハ此
處デハ裁判權ト云フ意味デ申シタ積リデアル、併ナガラ其
意味タルヤ裁判ノ事ニハ何モ彼モ參與セシムルト云フ意
味デハナクシテ、陪審法ノ内容如何ニ依テドレダケノ程度
ニ參與セシメルカト云フコトガ定マルノデアリマス、併ナ
ガラ國民ガ裁判ニ參與スルコト云フ主義ハ、陪審法ニ採ラ
バナラスト思ヒマス、是即チ陪審法制定ノ必要ガアルノデ
アリマス、ドレダケノ範圍ニ於テ預カラシメタルコト云フコト
ハ、是ハ法律ノ内容ニ依テ決定マルノデアリマス

○原委員 更ニ進ンデ御尋シタルモノハ以上ノ外司法大臣
ハ更ニ本案ハ「國民ヲシテ裁判手續ニ關與セシメテ、裁判ニ
關スル十分ノ理解ヲ得ルヤウニ致シ、又裁判ヲ常職トスル
所ノ裁判官ガ、時ニ陷ラントスル所ノ情弊ヲ救ヒマシテ、以
テ國民ヲシテ裁判ニ關スル信頼ヲ厚ク致シマシテ、裁判ニ
對シマシテ十分ノ歸服セシムルト云フコトガ、社會ノ變遷
ト人心ノ趨嚮トニ順ミマシテ極デ、緊要ナル事ト信ズルノデア
リマス」云々ト言ハレテ居ルノデアリマス、此國民ヲシテ
裁判手續ニ關與セシメテ、裁判ニ關スル十分ノ理解ヲ得ル
ヤウニ致スト云フコトデアリマス、先ツ爰ニ裁判手續
ト云フ文字ヲ特ニ御撰ビニナタテ居ルノハ、先ニ御尋致シマ
シタ司法事務ニ關シテト云フ、アノ事務ト裁判手續ト如何カ特
段ノ意味ガアッテ、斯ウ云フ文字ヲ御用キニナタテ居ルノ
マセウカ、其御釋明ヲ願フト同時ニ、此陪審制度ニ依テ國
民ヲシテ裁判ニ關スル十分ナル理解ヲ得セシメル、斯ウ云
フコトガ主要ナル理由ノヤウデアリマス、司法大臣ノ
希望セラレテ居ル所ノ此十分ナル理解ヲ得セシメルト云フ
コトノ、何カ具體的ナ御意嚮ガアルコト、思フノデアリマ
ス、ソレヲ一應御說明ヲ願フテ置キタイト思ヒマス

○岡野國務大臣 御疑ノ點ハ一點ノヤウデアリマス、法律
文トハ違ヒマシテ、此提出ノ理由ハ固ヨリ相當ノ所信ハ文
字ニ含マレテ居ルノデアリマス、レドモ、法文ヲ解釋ス
ルガ如ク嚴格ナル意味デハナノデアリマス、併ナガラ意味
ハ司法ノ事務ニ關シテハト云フ、司法ト云フ文字ヲ用キタノ
ハ、立法行政ニ對シテ司法ト云フ文字ヲ用キタノデア
ル、立憲政治ニ對シテ司法ト云フ文字ヲ用キタノデア
ル、國民ヲシテ裁判手續ニ關與セシメルト云フコトハ、是ハ具體
的ニ申上ゲタト申シテ宜イノデアリマス、内容ハ詰リ同ジ事
ヲ指スノデアリマスガ、唯、文字ノ用方ガ違フテ居ルト斯ウ申
上ゲルヨリ外ハナイト思ヒマス、更ニ裁判手續ニ關與セシメ
テ、サウシテ裁判ニ關スル十分ナル理解ヲ得セシムルト云
フコトニ付テ、何カ具體的ノ考案ガアルカト云フ御話デアリ

マスガ、具體的ノ考案ト云フモノハ、即チ陪審制度其モノニ依テ立ツテ居ルノデアリマス、陪審制度ヲ離レテ具體的ノ方法ト云フモノハ私ハ持テ居リマセヌ、主トシテ如何ナルコトガ目的デアルカ、云ヘバ、詰リ國民ヲシテ裁判ノ結果ニ付テ不滿ノ無イヤウニスル、即チ裁判ニ歸服セシメ、悅服セシメルニアラノデアアル、裁判ニ悅服セシメルニ付テハ、裁判官ト一般國民トノ間ニ於テノ諒解ニ存スルコト云フコトガ必要デアアル、其諒解ヲ得ルニハ國民ヲシテ裁判ニ關與セシメル外ニハ途ガ無イノデアリマス、是ガ即チ國民ガ裁判ニ付テノ理解ヲ得テ其理解スル所ニ依テ益々、裁判ニ對スル信頼ヲ厚カラシムルト云フ結果ヲ來スノデアアル、法案ノ目的トスル所ハ、即チ國民ヲシテ裁判ニ悅服セシメルニ在ルノデ、其悅服ヲ得ルニ付テハ國民ノ裁判ニ對スル諒解ガナケレバナラス、其諒解ヲ得ルニハ裁判手續ニ關與セシメテ、自ラ其裁判ニ與カル外ニ途ガ無イノデアアル、斯様ナ意味ニ於テ私ハ述ベタ積リデアリマス

○原委員 次ニ此裁判ヲ常職トスル所ノ裁判官ガ、時ニ陪審トスル情弊ヲ救フト云フコトヲ御述ニナッテ居リマスガ、是ハドウ云フ意味デアリマセウカ

○岡野國務大臣 陪審制度ヲ施行スルノハ、私ガ申スマデモナク裁判ヲ常職トシナイ所ノ素人ヲシテ、此裁判ニ關與セシムルニ在ルコトハ申スマデモナイノデアリマス、是ハ常職トシテノ裁判官ガ、何故ニ此陪審法ニ依テ素人ヲシテ裁判ニ與ラシムルノデアアルカ、若シモ常職トスル所ノ裁判官ノ爲ス所ノ裁判ガ、恰モ素人自ラガ裁ニ判參與シタノト全然同一ノ結果ヲ收ムルコトヲ得ルト云フノデアアルナラバ、是ハ其點カラノ議論シマシタナラバ、陪審制度ト云フモノハ無用ノ長物デアルト私ハ思ヒマス、サウデハナイ、素人ヲシテ裁判ニ參與セシムルノハ、或ハ場合ニ依テハ常職ノ裁判官ト見ル所ヲ異ニスルカモ知レヌノデアリマス、之ヲ一面カラ見マシタナラバ、裁判ヲ常職トスル所ノ裁判官ハ時ニ陪審トスル所ノ處ガアルノダト、斯ウ謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、其意味ヲ茲ニ申シタニ過ギナイノデアリマス

○原委員 是等ノ理由ト云フモノハ、若シモ歐米各國ニ行ル、所ノ陪審制度ナルモノデアレバ、洵ニ其疑問モ起ラナイノデアリマス、司法大臣ノ是等ノ御述ニナッテ理由ト云フモノハ、私ハ丁度モウ其歐米各國ニ行ハル、陪審制度ヲ、説キ得テ妙ナリト信ズルノデアリマスガ、日本ノ今ノ政府ノ御提案ニナッテ居ル所ノ此法案ニ付テ、果シテ如何ナル點デ是ダケノ期待ヲ爲サルノデアリマセウカ、ドウモ是等ノ常職裁判官ノ情弊ヲ濟フナドト云フヤウナ、其理想ノ事ハ何所デ起ルノデアリマセウカ、其具體的ナ御意見ヲ承リタイト斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、一般ノ陪審制度ノ利害

得失ト云フヤウナ漠タル其陪審制度ノ理論、本質等ヲ伺フノデハナノデアリマス

○岡野國務大臣 私ハ陪審制度ノ必要ナル大體ノ目的ニ於キマシテハ、我が採用セントスル所ノ陪審制度ト、外國ノ陪審制度ト異ナル所ハ無イト確信シテ居ルノデアリマス、茲ニ考ヘタル所ノ理由ハ、外國ノ陪審制度ニハ適應スルケレドモ、我が此法案——此處提出シタル所ノ法案ニハ適應シナイモノデアアルト、斯様ニハ考ヘテ居ラヌノデアリマス、陪審員ガドレダケマデ裁判ニ關與スルガト云フコトノ程度ニ於キマシテハ、ソレハ各々探ル所ノ法律ノ内容ニ依テ異ナリマスケレドモ、大眼目ニ於テ私ハ敢テ異ナル所ハ無イト思フノデアリマス、試ニ此提案ノ内容ニ付テ見マシテモ、兎モ角モ私ガ茲ニ申ス迄モナク、或ル範圍ニ於テハ、裁判官ハ陪審員ノ答申ヲ求メズシテ裁判スルト云フコトハ出來ナイノデアアル、如何ナル範圍ニ於テ陪審員ノ答申ヲ求メラルカト云フコトハ、是ハ法律ノ規定ニ依テ異ナリ居ルノデアアル、併ナガラ陪審員ノ答申ナクシテハ裁判ガ出來スノデアアル——判決ガ出來ナイノデアアルト云フコトダケハ、此提案ニ依テモ明ナ事デアアルノデアリマス、若シ裁判官ニ於テ陪審員ノ答申ヲ是ナリトスレバ、其答申ニ依テ直ニ判決ヲ外ニシテ裁判スルコトハ出來ナイト云フコトガ定メラレテ居ルノデアリマス、是即チ國民ヲシテ裁判ノ手續ニ關與セシムルモノデアアッテ、而シテ又一面ニ於テ陪審員ノ答申ヲ度外視シテ、或ハ陪審員ニ付セズシテ、若クハ其答申ヲ度外視シテ常職裁判官ガ判決スルコトガ出來ヌコトデアアルナラバ、茲ニ國民ノ常識ニ依リ判斷ト云フモノガ、裁判ノ上ニ現レルノデアリマス、是ガ先刻申述ベシタ事ト相俟ッテ、此處提案ヲ致シマシタ陪審法ノ說明ト致シマシテ、裁判手續ニ關與セシメテ、裁判ニ關スル理解ヲ得セシメ、又裁判ヲ常職トスル裁判官ノ時ニ陪審トスル弊ヲ匡救スルノデアアルト云フコトヲ私ガ申シタノデ、其理由ハ決シテ此處提案ニナッテ所ノ陪審法案ナルモノニ適應シナイ所ノ理由デアアルトハ、私ハ毛頭考ヘナイノデアリマス、唯、或ハ原君ノ御考ノヤウニ、每度此委員會デモ問題ニナリマスケレドモ、更ニ範圍ヲ擴メテ斯ノ如クセヨ、或ハ尙ホ進ンデハ陪審員ノ答申ヲ以テ、裁判官ガ繩束スルヤウニセネバナラヌト云フヤウナ徹底の御意見カラ申サレタナラバ、此陪審法案ノ内容ヲ以テハ、御満足ニナラヌト云フコトハアリマセウ、併ナガラ私ノ申述ベシタ理由ガ、提案ニハ當嵌ラナイヤウデアアルト云フ御疑デアラナラバ、是ハドウモ唯、御互見解ノ異ナルニ過ギナイノデアリマシテ、ソレヨリ以上私ハ何トモ御答ヲスルコトハ致シ兼ねルノデアリマス

○原委員 本員等ノ解スル所ニ依ルト、歐米ニ行ハレテ居ル陪審制度ナルモノト、此法案ノ陪審制度トハ大層異タク點ガアルノデアリマシテ、是ハ申ス迄モナク此委員會デモ度々大臣ガ御述ニナッテ如ク、一體日本ノ裁判ノ制度デハ、憲法ニ規定シテ居ル、此裁判ニ云フモノハ、事實ノ認定モ加ハッテ居ルノデアアル、隨テ裁判官以外ノ陪審員デハ、此事實認定權ト云フモノハ毛頭無イ、斯ウ云フ前提ノ下ニ本案ヲ立案セラレテアル、樞密院モ亦此點ニ於テ慎重審議ヲ經テ結果デアアル、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマス、成程本案ニ於テハ陪審員ノ答申ナクシテ裁判ヲ爲スコトガ出來ナイト云フコトハ、是ハ固ヨリ當然ノ事デアリマスガ、此事實認定權ヲ陪審員ハ有クナイガ爲ニ、陪審員ガ何遍答申シテモ、裁判官ガ之ヲ採用セナイト云フコトモ、此法案ニ明ニナッテ居ルノデアリマス、サウスルト事實認定權ハ常職ノ裁判官ニ在ルノデアリマスルカラ、司法大臣ノ述ベラレマシタヤウナ御希望ハ、此法案ニ於テハ如何ナル點ヲ以テ其目的ヲ達セラレントスルノデアアルカ、其點ガ本員等ガ分ラナイノデアリマス、ソレデ私ハ先程來詰ラナイヤウナ質問デアリマスケレドモ、司法大臣ガ本案提案ノ主ナル理由トシテ、或ハ司法事務デアアルト云フ、或ハ裁判ノ手續デアアルト云フヤウナ文字ニ御使用ニナッテ、此陪審法ノ提案ノ理由ハ、國民ヲシテ司法ノ事務ニ參與セシムルモノデアアル、裁判ノ手續ニ參與セシムルノデアアルト云フ、斯ウ云フヤウナ輕イ意味ノ文字ヲ御使用ニナッタルノデアアルカ、私ハ疑ハ懷イタノデアリマス、先程ノ釋明ニ依ッテ、司法大臣ノ言ハレタ司法事務ナルモノハ、司法權デアアル、國民ヲシテ司法權ニ參與セシムルノデアアル、又裁判手續ナルモノハ、司法權ニ參與セシムルノデアアル、併ナガラ此ホソノ試みの本案ニ於テ、果シテ司法大臣ガ堂々ト理由ヲ指摘シテ、澤山ニ御希望ノアツタヤウナ、其御希望ヲ達スル事ガ出來ルカドウカト云フコトヲ、非常ニ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、本案ニ於テ國民ガ裁判ノ眞ノ理解ヲ得ルコトガ出來ルト云フコト、又常設ノ裁判官ガ陪審トスル弊ヲ矯正スルコトガ出來ルト云フコト、或ハ國民ヲシテ十分裁判ニ悅服セシムルト云フ、斯ウ云フ三個ノ理由ヲ御掲ゲニナッテ堂々御述ニナッタガ、是ハ歐羅巴ノ陪審制度ノ事デアアル、本案ニ付テハソシナ理由ハ理由ニナラナイ、前段ニ於テ司法大臣ガ述ベマシタ所ノ本案提出ノ理由ハ、立憲政治ノ本旨ニ副フモノデアアル、即チ立法院ニ於テモ參與ヲ許シテ居ルノデアアル、又地方團體ノ自治權ニ於テモ、國民ノ自治ニ委ネテ居ル所ノ政治デアアル、デアアルカラ是ガ本案ヲ提出スル所以デアアルト云

フ唯、一點ダケニ過ギナイと思フ、他ニ裁判ヲ善クシヤウトカ、惡クシヤウト云フヤウコトハ、提案ノ理由デナイト私ハ實ハ考ヘルノデアリマス、一應其點ニ關スル御意見ヲ伺フテ置キタイと思フ

○岡野國務大臣 私ハ先ヅ第一ニ御斷り申シマスルガ、本案提出ノ理由ガ、單ニ國民ガ裁判ニ參與スルト云フヤウナ空ナ抽象的ノ事ニ止マテ、何等之ニ實益ガ伴ハナイト云フコトデアレバ、陪審法ハ全ク無用ノ物ナリト斷言致シマス、國民ノ裁判ニ參與スル所以ハ、實益ノ之ニ伴フモノガアル故デ、是ハ立法ニ於テモ、行政ニ於テモ同ジ事デアル、併ナガラ原君ノ御意見ノ通り私ノ本會議ニ於テ説明シタル所ノ理由ハ、前段ノ一ツニ止マルモノデアルト云フ御見解デアラナラバ、是ハ原君ト私ハ不幸ニシテ見解ヲ異ニスルト言フヨリ外ニ中上ゲヤウハナイノデアアル、私ハ決シテ空理空論ニ依ツテ、陪審法案ヲ提出スルト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ、國民ヲシテ裁判ニ關スル理解ヲ得セシメ、司法權ノ運用ニ關シテ國民ヲシテ十分ニ信頼セシムル、是ガ即チ實益デアル、裁判ニ對シテ國民ニ悅服セシムル、是モ實益デアリマス、唯、參與スルト云フ形ダケノモノデアラナラバ、私ハサウ云フ實益ハ無イト思フ、ケレドモ私ハ左様ニハ考ヘテ居ラヌノデアアル、ソレカラ此陪審法案ノ定ムル所ガ外國ノ陪審法トハ少シク異リテ居ルト云フ御話デアリマスガ、私ハ少シクデナイト、大ニ異リテ居ルト思フ、ソレカラ其大ニ異テ居ルガ故ニ、先刻モ申述ベマスルガ如ク、一方ニ陪審ト云フモノヲ設ケル以上ハ、徹底的ニヤラナレバナラスト云フ御意見カラ申シマスレバ、此陪審法案ハ不都合ナモノデアルト云フ結論ニ歸著スルト思フ、又御話ノ中ニ參與ト云フヤウナ輕イ言葉ヲ用キタト云フ御話デアリマスガ、左程輕イ意味ニ用キタ積リデハアリマセヌケレドモ、併ナガラ若シ輕イ意味ニ用キタト云フコトナレバ、陪審法案ト云フモノハ一部ノ論者ノ言フガ如ク、外國ノ陪審法ノヤウニ徹底的デナイトカラ、輕イ意味ヲ用キタノデアルト云フ御解釋ニナツテモ、私ハ毛頭異存ハ無イノデアリマス、ソレカラ究極ニナツ所私ハ御質問ノ要點ハ何所ニ在ルカト云フコトヲ、只今ノ御質問ニ依ツテ御眞意ノ存スル所ヲ漸クニシテ諒解致シマシタ、ソレハ事實ノ認定權ノ問題デアリマス、是ハ恐ラクハ——私ハ十分ニ記憶ヲ致シマセヌケレドモ、前議會ニ於テ陪審法案ノ提出セラレタル當時ニ於テモ、此問題ガ矢張委員會ニ於テモ論議セラレタルデアアル、又私ガ委員會ニ於テ陪審法案提出ノ理由ヲ述ベマシタ際ニ於テモ、其大綱トシテ私ハ、第一ニハ本案ニ於テハ裁判權ハ全然裁判所ガ行フモノデアリマシテ、陪審ハ裁判權ノ一部ヲ行フモノデアアリマセヌ、單ニ犯罪事實ノ有無ヲ評議シテ其結果ヲ裁判所ニ

答申スルモノト致シデアリマス、第三ニハ裁判所ハ罪ノ有無ニ關スル裁判ヲ爲スニ方リマシテハ、陪審ノ答申ヲ是認致シマシタトキハ、之ニ基イテ裁判ヲ致スケレドモ、陪審ノ答申ヲ不當ト認メマストキハ、更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スル事ヲ得ルモノト致シデアリマス、斯ウ云フコトヲ私ハ陪審法案ノ内容ノ綱領トシテ申述ベタノデアリマス、是ハ本案ヲ御覽ニナレバ、其趣意デアアルコトハ洵ニ明瞭デアルト思ヒマス、デ私ハ又委員會ニ於キマシテ、ドナタカラノ御質問デアツカ記憶致シテ居リマセヌケレドモ、事實ノ認定ハ裁判デアアルヤ否ヤト云フコトニ付テ、前ハドウ云フ考ヲ持ツテ居ルカト云フ御質問ヲ受ケマシタ、事實ノ認定ハ裁判ニ非ズト云フヤウナ論モ一部ノ人ニ依ツテ唱ヘラレテ居ルヤウデアリマス、併ナガラ私ハ左様ニ存ジマセヌ、事實ノ認定ハ矢張裁判ノ一部デアアル、自分ハ斯ウ云フ見解ヲ持ツテ當時御答ヲ致シタノデアリマス、今モ尙此見解ヲ變ヘルコトハ致シマセヌ、ソコデアリマス、御質問ニ、既ニ事實ノ認定ハ裁判デアアルノデアアルカラ、憲法上裁判所ガ之ヲ行ハネバナラヌト云フコト、ナリ、而シテ他ノ一方ニ於テ陪審ノ答申ガ裁判所ヲ拘束シナイモノデアアル以上ハ、殆ド陪審ノ効用ガナイデヤナイカ、前ガ説明スルヤウナ事ハ少シモ無イデヤナイカト、斯ウ云フヤウナ御疑問ノヤウニ承ツタノデアリマス、此中ノ第一點ニ付キマシテハ、私ハ若シ陪審ノ答申ガ裁判所ヲ當然拘束スルモノデアルト云フコト、致シマスレバ、是ハ憲法ノ精神ト私ハ符合シナイモノデアルト考ヘテ居ルノデアリマス、憲法ヲ改正セザル以上ハ、陪審ノ答申ヲ以テ裁判所ヲ拘束スルト云フ力ヲ與ヘルコトハ、私ハ出來ナイモノデアルト思フテ居リマス、ソレカラ第二ノ點ニ付キマシテハ、成程陪審員ノ答申ヲ是認シナイトキニ於テ拘束力ガ無イノデアリマスカラ——拘束力ガ無イノデアリマスカラ、是認シナイトキモ無論アリ得ルノデアリマス、是認シナイ場合ニ於テ、直ニ自ラ裁判ヲ下スコトノ自由ヲ持ツテ居リマシタナラバ、ソレハ私ハ原君ノ御説ノ通りデアラウト思ヒマス、答申ヲ是認致サナイト云フ場合ニ於キマシテハ、又更ニ他ノ陪審員ノ評議ニ付セザルベカラズト云フ規定ガ存スル以上、裁判所ガ自ラ自己ノ見ル所ヲ以テ獨斷專行ニ判決ヲ爲スコトノ自由ハ無イノデアリマス、此意味ニ於テ、即チ裁判所ガ何所迄モ所謂素人ノ常識ニ訴ヘテ、罪ニ有無ニ關スル評議ヲ爲サシメテ、此答申ニ依ツテ裁判ヲセネバナラスト云フ、茲ニ此意味ニ於テハ拘束力ガアルノデアリマス、何時マデ經ツテ、何遍陪審員ヲ變ヘテ見テモ、裁判所ガ其手續ハ試ミネバナラスノデアリマス、法律上ソレハヤラネバナラスノデアリマス、自ラ信ズル所ニ依テ事實ノ認定ヲ爲シテ、サウシテ裁判ヲスルト云フコトハ出來ナイ、

茲ニ此陪審法案ノ効用ガ存スルノデアアル、是ガ明ニ外國ニ於ケル陪審制度トシテ一般ニ認メテ居ルモノト大ニ異ル點デアツテ、而モ之ヲ以テ今日ニ於テ政府ノ信ズル所、我ガ陪審法案ノ特徵ナリト考ヘテ居ルノデアリマス、特色ナリト云フノデアリナイ、特徵ナリト考ヘテ居ルノデアリマス、實際ノ結果ハ然ラバドウスルカ、裁判所ガ一定ノ見解ヲ持ツテ凡ソ見ル所アリ、陪審員ハ又反對ニ見ル所アリ、何時迄經ツテモ一致シナイト云フコトナラバ、自ラ裁判所ガ見ル自分ノ信ズル所ノ誤ナルコトヲ悟ルカ、或ハ陪審員ガ前ニ爲シタル所ノ答申ノ誤レルカラ信ズルニ至ルカ、何方カヨリ外ニハ途ガ無イノデアアル、孰レニナルカト云フコトハ遽ニ判斷ヲ致スコトハ出來マセヌケレドモ、併ナガラ多クノ場合ニ於テハ裁判官ガ反省シテ、何遍陪審員ヲ變ヘテ見テモ同ジ答申ニナルナラバ、其答申ヲ是認スルト云フニ至ルデアラウ、斯ウ私ハ考ヘテ居リマス、サウ云フコトニ至レバ、其陪審員ノ答申ニ依ツテ自ラ裁判所ガ之ヲ是認シテ裁判ヲスルト云フコトニ至ル、斯ウ云フ結果ヲ生ズルモノト私ハ信ジテ居ルモノデアリマス

○原委員 司法大臣ノ樓タトシテ御教示ヲ仰グ點ハ感謝ノ至デアリマスガ、本員ハ此本案其モノニ付テハ決シテ不贊成デハナイノデアアル、本案ガ歐米ノソレノ如クアラネバナラスト云フ考ヲ持ツテ居ル者デハナイノデアアル、尤モ憲法上歐米ノ制度ノ如ク陪審員ニ事實認定權ヲ與ヘテモ、決シテ我ガ憲法ノ趣意ニ反スルモノデアリナイト云フ見解ハ持ツテ居ルノデアリマス、又假令一部論者ノ疑問トスル所デアツテ、如何ニモ反對論ガアルト云フコトモ認メテ居ルノデアリマス、サウ云フ疑義ヲ避ケル爲ニハ憲法——國家ノ司法權ノ大革新デアアルガ故ニ、若シ歐米ノ陪審制度ノ如キ制度ヲ必要トスルナラバ、憲法改正ヲ企テ、モ差支ナイ問題デアルト思フノデアリマス、憲法改正ヲ企テ、モ差支ナイ問題デアルト思フノデアリマス、事ガ此ニ至ラナクシテ、昨年以來本案ノ提案トナツタノデアリマシテ、或ハ惟フニ是ハ最初ノ試トシテ、世界ニ誇ルベキ制度トモナリハシナイカトモ考ヘテ居ルノデアリマス、一旦本案ノ提案トナリマシタ以上ハ、決シテ其趣意ニ反對スル者デハナイノデアアルマス、ナイノデアリマスガ、唯、私ノ希望スル所ハ今朝來御確メ致シタ如ク、一日モ早ク本案ヲ施行シナレバナラスト云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、大正十七年ナント云フ四五先年先期シテ、今爰ニ此法案ヲ何故制定シテ置ク必要ガアルカ、此一點ニ私ノ質問ハ存スルノデス、其私ノ意見ニ基イテ考ヘテ見ルト云フコト、ドウモ司法大臣ノ提案ノ理由ヲ聽キ、或ハ速記録ニ依ツテ讀シテ見テ疑義ガアルノデアリマス、先程司法大臣ハ自分ガ説明シテ置イタ三箇ノ理由、即チ國民ヲシテ諒解ヲ得セシムル、又常職ノ裁判官ノ陷ラ

ントスル弊ヲ矯正スルノデアル、又國民ヲシテ裁判ニ悅服セシムルノデアル、是ガ本案ノ提案ノ根本義デアル、然ルニ原ノ質問スル所ニ依ルト云フ、空理空論ヲ希望シテ、唯、立憲政治ノ歸結トシテ、國民ヲシテ司法權ニ關與セシムルト云フコトデアルナラバ、自分ハ固ヨリ反對デアル、何モ實益ガ無いデハナイカ、斯ウ云フ御意見ヲ承ルニ至ッテ、私ハ實ニ意外千萬ニ存スルノデアリマス、愈々、私ハ司法大臣ノ御演説ノ趣意ガ那邊ニ在リタカト云フコトガ、稍々諒解ガ出來タノデアリマス、是ガ私トノ見解ノ相違デアリテ、又其點ガ本案施行期日ニ關スル見解ノ岐ル、點ト存ズルノデアリマス、私ガ、私ノ主張スル事、即チ陪審制度ノ樹立ノ急務デアリ事、其理由トスル所ノ立憲政治ノ本義デアルト云フ見解ハ、之ニ實益ノ伴ハナイナド、云フコトハ、是ハドウモ私ハ以テノ外ノ事デアルト思フノデアリマス、其理由ハ裁判ノ完全不全トカ、裁判ノ完備ヲ期スルカ云フヤウナコトヨリカ、ズット實益ノ多イ問題デアルト思フ、若シ司法大臣ノ言ノ如クンバ、一體立憲政治ト云フモノハ何モ實益ハ無い、矢張專制政治ガ最モ實益ノ多イモノデアル、國民ノ福利、國家ノ幸福増進ノ爲ニハ專制政治ガ理想デアル、斯ウ云フヤウナ御意見ト同ジヤウニ一寸考ヘラル、ノデアリマス、要スルニ著眼ハ、司法大臣ハ司法ノ一局ノ司法制度ヲ完備スルト云フ小ナル著眼點、私ハ我ガ日本ノ政治全體ノ著眼點アルト云フ、斯様ナ相違デアルト考ヘルノデアリマスガ、今日立憲政治ガ何故必要デアルト云フコトニ付テハ殆ド説明ヲ要シナイ、今朝申シマシタ如ク、民ノ意思ヲ基トシテ政治デナケレバナラナイノデアリマスカラ、國民ヲ代表シテ立法權ニ參與スル法律ヲ拵ヘタ以上ハ、其法律ヲ活用スルト云フコトノ機關デアル、國家ノ司法權ニ對シテ、國民ガ參與スルト云フコトハ、之ニ實益ガ無クシテ何ガ實益ガアルト申シマセウカ、是ガ根本義デアルト思フ、固ヨリ司法大臣ノ掲ゲラレタ三箇ノ理由ト云フモノハ、敢テ私ハ之ヲ否定スルモノデハナイ、併ナガラ是ハ其結果ノ附錄同様ノモノデアル、根本ノ本旨ハ別ニ在ルノデアリマシテ、其附錄ガ恰モ陪審制度ノ根本義デアルト云フ御意見、民ヲ悅服セシムルトカ、裁判官ヲシテ常識アル裁判ヲセシムルトカ、國民ノ諒解ヲ得ルトカ云フヤウナ、司法制度ノ完備云フコトヨリモ、立憲政治ノ當然ノ筋道ノ方ヲ整ヘテ、之ニ依ッテ進ム以上ハ、裁判ガ少々間違ッテ裁判デアルニシテモ、或ハ法律通りニ適用シナカッタニ致シテモ、此陪審制度ナルモノガ立憲政治ノ上ニ在ッテ、吾々ハ自由ニ本當ノ守本尊デアルト考ヘテ居ル、是ガ本當ノ實益ノ著大ナルモノデアルト思フノデアリマス、斯ノ如キ歸着點、結論ニ於テ相違ガアルト云フコトヲ御認ニナルコトガ出來マセウカ、蓋シ出來ナイトハ

思ヒマスクレドモ、念ノ爲ニ一應御尋致シテ置クノデアリマス
○岡野國務大臣 私ハ茲ニ敢テ原君トエラク立入ッテ論議ヲスルト云フ必要ハ認メマセヌ、併ナガラ私ノ申述ベマシタ事ニ甚シイ誤解ガアルト私ハ思フノデアリマス、此誤解ダケハ少クモ私ハ解イテ置ク必要ガアラウト思フノデアリマス、私ハ曩ニ原君ガ此度提出シタル所ノ陪審法ト云フモノハ、此內何所ヲ檢スルノニ、オ前ノ説明シタル所ノ一向當ラズ、當ル所ハ何所ニアルカト云ヘバ、所謂立憲政治ノ本旨ニ適フ所云フ所ダケニ在ルノダ、後ノ所ハ外國ノ陪審制度ニ適應スルモノガアルカモ知レヌケレドモ、此提出セラレタ所ノ陪審法案ハ少シモ適應シナイノデアル、理由トシテハ、唯、立憲政治ノ本旨ニ適フ所云フ一點ガ適應シテ居ルノデアル、斯ウ云フ御話ノヤウデアリマスガ、ソレハ左様デハナイノデアリマス、司法ニシテモ、行政ニシテモ國民ガ參與スルト云フコトハ立憲政治ニ適フノデアリマスガ、其本旨ニ適フ所以ハ實益ガアル所デアリテ、何等實益ナクシテ唯、空ニ立憲政治ノ本義ニ適フ所云フコトヲ言ウタノデハナイ、斯ウ云フコトヲ原君ノ御駁論ニ對シテ私ハ申シタルデアリマス、決シテ今原君ガ御述ニナリマシタヤウナ國民ガ司法ニ參與スルコトガ、立憲政治ノ本旨ニ適フモノデハナイト思フノデアリマス、施行期日カ先キデアルカライケナイ、ソナ小サイ問題デハナイノデアル、私ハ立憲政治ノ本旨ニ適フコト云フコトニ付テハ、唯、何カ頭ノ中ニ司法ノ事バカリ考ヘテ、一般國政ノ事ハ更ニ考ヘテナイヤウデアルト云フ御話ノヤウデアリマスガ、立法權ヲ行フニモ、行政權ヲ行フニモ、司法權ヲ行フニモ、國民ヲ參與セシムルト云フコトガ均シク立憲政治ノ本旨ニ適フ所以デアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、而シテ是ハ唯、空ニ參與シテ云フダケノ意味デハナイ、此參與スル所以ノ理由ガナケレバナラヌ、其理由ガ即チ此國民ノ參與スルコトガ實益ガアルト云フコトヲ私ハ信ジテ居ル、ソレヲ私ハ唯、午前ニ述ベタルデアリマス、而シテ今ノ御話中ニ依ッテ見マスト、施行期日ガ四五年モ先ニアルノニ、何デ今日法律ヲ制定スル必要デアルヤウナ御疑問モ含マレテ居リタヤウデアリマス、是ハ先以テ午前ニ申シマシタル如ク法律ヲ造ッテ、而モ斯ノ如キ原君ノ仰シタル如ク、司法制度ノ根本ニ大變革ヲ加ヘヤウトスル所ノ重大ナル所ノ本法案、今日議會ヲ通過シテ直ニ之ヲ施行スルト云フコトハ、是ハ到底出來ナイ事デアル、而モ先刻モ申述マシタルガ如ク、事實ニ於テ此法律施行ノ準備ヲ要スルノデアアル、之ニ數年ヲ要スルト云フコトヲ私ハ申シタルデアリマス、然ラバソナニ先ノ法律ヲ出サヌデモ宜シイデヤナイカ、ソナ法律ヲ造ラヌデモ宜シイデヤナイカ、斯

ウ云フ御疑問モアツタヤウデアリマス、法律ガ通過モズンバ準備モ出來ナイノデアリマス、法律ノ通過ヲ見越シテ、豫メ豫審部ヲ各地方ニ増築シテ、法律ガ三年ノ後ニ通過スルデアラウ司法官ヲ今カラ養成シテ置ク、斯ウ云フコトハ事實ドウモ出來ナイノデアリマス、又國民ヲシテ十分ニ此陪審法案ノ內容ヲ周知セシメテ、施行ノ後遺憾ナキヲ期スルト云フコトハ、矢張法律ト云フモノハ制定セラレタ曉デナケレバ出來ナイノデアリマス、是等ノ事ハ丁度私共ノ考ヘテ居リマスル事、或ハ原君ノ御考ニナッテ居ル事ト反對ニナッテ居リマスルカト思フ、法律ヲ制定スルノ必要ハ、今日ヨリ相當ノ準備ヲ整ヘテサウシテ其準備成ツタ曉ニ於テハ、速ニ施行シタイト云フ考ヲ持ツテ居ル、ソレガ故ニ先ヅ法律ノ通過ヲ希望シ、其通過シタル所ノ法律ニ依ッテ、相當ノ準備ヲ致シタイト思フノデアリマス、而シテ此準備ヲ爲スノ期間ニ付テ色々調査ヲ致シマシタケレドモ、初メ考ヘテ居タ如ク、二年後ニ施行スルト云フヤウナコトデハ、到底準備ガ整ハナイノデアリマスカラ、已ムヲ得ズ十七年ノ初リニ於テ之ヲ施行シタト云フ計畫ヲ定メタ所以デアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒタイ、而シテ最後ニ私ハ一言致シマス、立憲政治ヲ解スルト云フ根本ノ御考ニ付テハ、是ハ私モ何等原君ト異ナクハ無いノデアリマス、唯、先刻申上ガマシタノハ此理由ガ當ラヌデハナイカト云フ御話デアリマシタカラ、ソレニ對シテ理由ハ當テ居ルト云フコトヲ申シタニ過ギナイノデアリマスカラ、此點ニ於テ誤解ノナイヤウニ願ヒタイト思フ
○原委員 本案提出ノ理由ノ一部ニ付テハ大變能ク分リマシタ、併ナガラ先程來ノ御答辯ニ依ッテ、尙ホ此疑ノ點ハ、結局施行期日ノ問題デアリマセウカ、成程本案ヲ通過シタルトキニハ、之ガ施行ノ準備ヲ要スルト云フコトハ是ハ洵ニ御尤ノ事デアリマス、午前中司法大臣ノ御答辯ニ依レバ、本案施行ノ準備トシテハ、先ヅ建築ト判事ノ養成ト宣傳ト三ツデアル、是ガ準備ノ主ナル箇條デアル、斯ウ云フ事ヲ御述ニナッテ居ルノデアリマスガ、此三箇ノ準備事項ニ付テ四五年間モ要スルトハ吾々ハ考ヘナイノデアリマシテ、先ヅ建築ニ致シタ所ガ、今日ノ財政狀態カラ見マシマモ、サウ大變案ナ事ヲヤラナケレバ、陪審制度ノ運行ガ出來ナイト云フ譯デモナイ、又司法官ノ養成ト云フコトデアリマスルガ、司法官法ノ養成ニシテモ、是ハ其陪審制度ヲ設ケルカラ、特段ニソレノ爲メノ司法官ヲ養成ト云フコトデハナイダラウト思フ、多少是モ法ノ擴張スベキハ當然デアリマスケレドモ、ソレハモウ今日ニ於テモ年々歳々缺員アリ、又之ヲ補充シナケレバナラナイ、是ハ當然ノ事デアアル、又此陪審法案ノ規定ヲ見マシタ所デ、特段ニ此陪審制ヲ施行セラレタカラ、現在

ノ刑事訴訟手續トハ特段ノ差異ガアルト云フコトヲ見ラレ
ナイ、裁判ノ適方ニ於テモ大シク相違ハ無イ、又司法省ノ此
陪審制度宣傳ノ事ニ至リマシテハ、是ハドウモ四五五年モ掛ッ
テ宣傳シナケレバナラナイト云フ理由ハ、ドウモ解スルコ
トガムツカシイノデアリマス、要スルニ從來此法律ガ
出來マス場合ニ、例ヘバ大法院デアアルナラバ、日本デハ隨分
急速ニボカト發布シテシマフノデアリマス、ルケレドモ、歐羅
巴邊ノ事例ニ徴シテ見テモ、法案出來ル前ニ、世間ニ其法案
ヲ何年聞曝ラステ云フコトハ、是ハ事例アルノデアリマス
ルガ、一旦法律ヲ制定シテ置イテ、時ノ急務デアリシテ制
定シテ置イテ、サウシテ四五五年間之ヲ曝ラシテ置イテ、四五
年後デナケレバ實施ガ出來ナイト云フ法案ハ、未ダ會テ事
例無イノミナラズ、斯ノ如キ事ハ、一體法律制定ノ趣意ト
ハ、非常ニ逆行スル遺方デアルト思フノデアリマス、午前中
ノ御言葉、又先程ノ御答辭ニ依ッテ、是等ノ準備ハモウ一年
モアツタラ十分デアルト思フノデアリマス、然ルニ四五五年
掛ラナケレバナラナイト云フ理由ニ至ッテハ、マダ解スルニ
苦シムノデアリマス、此點ノ説明ヲ煩シタイト思ヒマ
ス

○岡野國務大臣 私ハ陪審法案ノ施行準備ニ斯ク々々ノ計
畫ヲ要スルモノデアルト云フコトハ、原君ノ御出席ノナカ
タ時ニ詳シク申述ベタ積リデアリマス、速記録ニ依ッテ既
ニ御承知下スデ居ルヤウナ御話ニ承リマシタカラ、成ベク
簡略ニ申述ベタ方ガ宜カラウト思ッテ略シテ、詳イ事ハ申述
ベナカッタノデアリマス、私ハ重複スル嫌ガアルモノト見タ
ノデアリマス、併シ今御尋ニ依ッテ見マスレバ、必シモ私ノ
推測ガ中テ居ラナカッタヤウニ思ヒマス、外圍陪審裁判觀察ニ
要スル經費、司法省職員臨時増員ニ要スル經費、準備委員會
設置ニ要スル經費、講演及印刷物ニ要スル經費、司法官試補
臨時増員ニ要スル經費、豫備判事及同檢事臨時増員ニ要ス
ル經費、廳舎増築及陪審員宿舍新營ニ要スル經費、陪審員候
補者選定事務監督等ニ要スル器具、用度設備、陪審部七十一
部設備ニ要スル器具用度設備費、是等ノモノガ陪審法ヲ施
行スル準備費トシテ必要ナルモノデアリマス、ソコ
デ御話中マ裁判官ハソノ増サナイデモ今ノ儘デ宜カラ
ウ、ソレデ出來ラデアラウト云フコトデアリマシタガソレ
ハ到底出來マセヌ、唯、人員ノ増員ヲ要スルバカリデナイ
ノデアリマス、陪審部ト云フモノヲ設ケテ、專門ニ其陪審ノ
事ニ當ラシメナクテハナラヌ、而モ其陪審部ヲ構成スル所ノ
裁判官ニ付キマシテ、特ニ陪審制度ニ能ク通ゼシメル必要
ガアルノデアリマス、又其施行上ニ於テ誤ノ無イコトヲ期
サナケレバナラヌノデアリマス、一寸考ヘマシテモ、今公判

ニ於テ一ツノ刑事部ニ於テ陪審ヲ請求スル、ソレガ陪審部
ニ變ルト云フコト、是ハ到底出來ナイ、勢ヒ專門ノ陪審部ヲ
設ケマシテ、例ヘバ請求陪審ノ時デアレバ、其請求ニ依ッテ
其方ノ部ニドウシテモ移サナケレバナラヌト云フ必要ガア
ルト思フ、即チ一ツノ部ガ普通ノ裁判部ニナリ刑事部ニナリ、ソ
レガ又俄ニ陪審部ニナリ、ソレガ又普通ノ刑事部トシテ働
クト云フヤウナコトハ、到底豫期スルコト出來ナイ事デアラウ、
ト私ハ考ヘテ居リマス、斯ノ如ク致シタナラバ、陪審部ノ増
設ノ爲ニ司法官ノ必要ナルコトハ、當然ノ結果トシテ生ズルノデ
アリマス、之ガ爲ニ先刻モ申述ベマシタ如クニ、二百五十六
人ノ陪審司法官ト云フ者ヲ、判事檢事併セテ二百五十六人
ノ増員ヲ要スルノデアリマス、尙ホ此二百五十六人ノ司法
官ヲ、一年以内ニ直ニ採ッテ吳レト云フコトデアリマシテモ、
是ハ不可能デアリマス、原君ガ若シ司法部ニ居ラレタラ出
來ルカ知レマセヌガ、私デハ到底出來マセヌ、又建築ニシテ
モ全國ノ地方裁判所ニ於テ設ケル所ノモノハ、單ニ陪審部
バカリデハナイノデアリマス、陪審員ハ法律ノ規定ニ依ッテ
他ト交通スルコトヲ許サナイト云フコトニナッテ居リマスカラ、
ドウシテモ陪審員ノ宿舍ト云フモノヲ、特別ニ設備シテ造
ラナケレバナラヌ必要アルノデアリマス、是ハ若シモ經
費モ構ハナイ、職員モ必要ニ應ジテドシノ増員スル、技師
モ置クト云フヤウニシテ、全國一時ニ建築ニ著手スルト云
フコトデアレバ、必ズ四五五年ヲ要サナイダラウト思ヒマス、
併ナガラハ是ハ中ノ容易ナ事デアリマス、而モ其額
ハ相當ニ多額ニ上ル見込デアリマス、サウ輕々シク建
築ガ出來ルモノトハ思ハヌノデアリマス、ソレカラ宣傳ト
云フ御話デアリマスガ、國民ニ能ク陪審法ノ内容ヲ知ラシ
メテ置ク必要ガアルト申上ゲタノデアリマス、是ハ必シ
モ四年ヲ要スル、五年ヲ要スルト考ヘテ居ルノデアリマセ
ヌ、他ノ主ナル理由ヨリシテ、四五五年後ヲ期スルニ非ズンバ、
陪審法ノ施行ガ出來ナイト云フノデアリナラバ、其間ニ能
ク周知徹底セシメル必要ガアルコトデアラウ、是ガ四五
年ヲ要スルト云フノ申上ゲタノデアリマス、主ナル理由ニ
依ッテ四五五年ヲ要スルガ故ニ、其間ヲ利用シテ原君ノ仰シヤ
ル宣傳ヲ致シタ方ガ適當デアル、斯ウ云フ意味ニ於テ申上
ゲタノデアリマス、併ナガラ經費ヲ要スル上ニ於テハ同ジ
デアリマス、ソレカラ尙ホ附加ヘテ申上ゲテ置キマスガ、是
モ委員會ニ於テ申述ベタト記憶シテ居リマスガ、此陪審法
施行ノ爲ニ、十二年度ノ追加豫算トシマシテ約十萬圓ノ經
費ヲ提出スル積リデアリマス、是ハ前年陪審法案ヲ提出サ
レマシタル當時ニ於キマシテ矢張其要求シタル所ノモノハ
十一年度ノ追加豫算約十萬圓ノ外國派出費デアッタノデア
リマス、陪審法案ハ衆議院ヲ通過シ、其追加豫算モ亦衆議院

ヲ通過シテ貴族院ニ送付セラレタル場合ニ於テ、陪審法案
ガ其議ヲ見ルニ至ラズシテ終ッタ爲ニ、此追加豫算モ亦削
除サレルニ至ッタノデアリマス、何ノ爲ニ必要デアルカ、其
當時必要ナリトシタ理由ト、今日同ジ額ヲ追加豫算トシテ
外國派遣費ヲ要求シマシタ理由ハ矢張變ラナイノデアリマ
ス、全ク同一デアアルノデアリマス、陪審制度ノ可否ハ既ニ天
下ニ定論アリ、斯ウ私ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、之ヲ施
行スルニ付テ、其實際ノ狀況ヲ觀察セシメル必要ガアルト
云フデアアルノデアリマス、若シモ陪審制度ガ定論デアリ
ト云フナラバ、ソレハ陪審制度ノ可否ヲ調査ニヤルト云フ
コトノ理由ハ無論アルノデアリマス、併シ此點ニ於テ原君
ノ御考モ吾々ノ考ヘテ居ル所モ全然同一デアリマス、陪審
制度其モノニハ反對デアリマス、是ハ矢張定論ナルコ
トヲ御認ニナッテ上ノ事デアルト私ハ思フノデアリマス、
此調査ノ爲ニ外國ニ出スト云フコトハ、實地ヲ調査シマス
テ制度ノ可否ヲ究ニヤルノデアリ、而シテ其實地調査ト
云フコトニ付テハ、陪審ト云フ制度ヲ如何ニ運用シツ、ア
ルカト云フコトノ實況ヲ見ルノデアリマス、而シテ其中ニ
ハ陪審院ト云フモノ、宿舍ト云フモノガ如何ニ國民ノ迷惑
ニナラヌヤウニ、而シテ陪審制度ノ趣意ヲ貫徹スル上ニ於
テドウ云フヤウナ設備ヲ爲シタナラバ、能ク其目的ヲ達
ルコトヲ得ルカト云フコトモ併セテ調査致サセル積リデア
リマス、是ハ昨年ノ議會ニ追加豫算ヲ請求シタ時モ同一ノ
趣意デアッタト私ハ思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ
先ヅ明年ニ於キマシテハ其點ヲ一ツ十分ニ調査セシメテ、
而シテ其結果ヲ俟ッテ明年、即チ大正十三年度ヨリ臨時費
ト致シマシテ増築ノ費用ヲ要求スル積リデアリマス、先以
テ外國ノ實況カ如何ナルモノデアアルカト云フコトヲ成ベク
速ニ調査セシメル爲ニ、先以テ來年度ニ於テ十二年度ノ追
加豫算トシテ約十萬圓ノ金ヲ要求スルコトニ定マッテ居ル
次第デアリマス、結論ニ至リマシテハ原君ノ御希望ノ如ク
成タケ早ク施行セラル、ノハ洵ニ結構デ、私モ毎度繰返シ
テ申ス如ク、成ベク早ク之ヲ施行シタイト云フ精神ハ同ジ
事デアリマス、併ナガラ何分ニモ準備成ラザルノハ如何ト
モ致方ナイ、準備ノ成ルヲ俟ッテ、法律ノ施行ニ万遺憾ナカ
ラシムル用意ヲシテ、サウシテ施行シタイ、去ナガラ大正十
二年末ニアラザレバ出來ヌト云フ結論ニ達シタノデアリ
マス、其邊ハ然ルベク御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマ
ス

○原委員 本案ノ質問ニ牽聯シテ質問セザル點ニマデ非常
ニ周密ナル御答辭ヲ戴キマシタコトハ洵ニ恐縮ノ至リデア
リマス、此追加豫算ヲ以テ御請求アルベキ御見込ノ費用ニ
付テハ洵ニ結構ナ事デアリマシテ、又本案施行後ヲ見込

デ司法省ニ於テドウカ出来ルケウント豫算ヲ御要求ニナ
テ、此機會ヲ利用セラル、コトハ本員等ハ非常ニ望ミ居
ル所デアリマス、先程ノ御説明ニ依リテ冀クハソレ以上ニモ
ウ一ツ名ヲ準備ニ藉リテモ宜シイノデスガ、司法權ノ爲ニ
ウント豫算ヲ要求シテ戴キタイ、唯、其本員等ノ間ハソレ
シタ所ハ、御述ニナツタヤウナ準備ガ何故四年間ト云フモノ
ノ長イ期間ヲ要スルカト此一點デケデアツタノデアリマス、
私ノ御聞ヒシタノハ——デ中ニ目星シイ所ノ御意見トシテ
ハ司法官ヲ二百五十名モ養成シナケレバナラヌ、之ガ其年
數ガ掛ル、又建築モ總テサウ急ニ行クモノデアリナト斯ウ
云フ事デアリマシタガ、其建築方ハ暫ク措イテ、陪審制度
爲ニ司法官ヲ養成スルノニ二百五十人ヲ四年間掛ツテ養成
シナケレバ、ドウシテモ其前ニハ養成出来ナイト云フ理由
ダケニ付テ一ツ御答辯ヲ得タイと思ヒマス、併セテ準備ニ
付テ四年間ノ長時日掛ラナケレバ、ドウシテモ早く出来ナ
イ、本案ノ其急務タルコトハモウ非常ニ急ヲ要スルモノト
本員ハ考ヘル、昨年ニ於テモ隨分此本案ニ付テ意見ガアツ
ノデアリマス、昨年度ニ於テハモウ急ニ實施セラル、ト云
フコトデアツテ、吾々ハ碌々質問モシナイデ、早く貴族院ニ
送ッテ早ク本案ヲ通過セシメナケレバナラヌト云フ意氣込
カラ大ニ賛成シタノデアリマス、本年ニ於キマシテモ其意
見ハ一向變リハナイノデアリマス、ソレヲ本年ニナリマシ
テ、司法當局ノ御意見デ四五年先キノコトヲ今カラ議シテ
置カナケレバナラヌト云フコトニナツタノデ、多少失望ノ嫌
ヒガアルノデアリマスカラ、此點ニ付テ十分ナル御説明ヲ
モウ一應煩ハシテ置キタイと思フノデアリマス

○山内府委員 此準備ノ事ニ付テ私カラ更ニ附加ヘテ置キ
マス、理窟ヲ言ヘバ建築ハ一年デ出来マス、是ハ其建築ダケナ
ラバ一年デ出来マス、千人ニモ二千ニモモヤラセレバ或ハ
出来ルカモ知レマセヌガ、併ナガラ此司法官ノ養成ト云フ
ノハ、司法官ノ知識ヲドウスルト云フノハナクシテ、司法
官二百五十六名必ス要ルノデ、是ハ一夜漬デ出来ナイト云
フコトハ原君能ク御承知ノコト、思ヒマス、試補ヲ採ッテ少
クトモ一年半ハ養成シナケレバ、判事ニモ檢事ニモナレナ
イト云フコトハ原君ハ司法部ニ於テ能ク御承知ノ事ト思ヒ
マス、ソコデ先ツ試補ヲ二百五十六人今年一遍ニ採ッテシマ
ヘバ後一年デ二百五十六人出来ルカト云フニ、之ガ出来ナ
イノデ、ト云フノハ現在司法部ニ於テ年々缺員ガ平均シテ
生ズルノハ今日ノ制度上ニ於テモ六十人七十人、ソコデ六七
十人ノ缺員ヲ補フガ爲ニハ先ツ試補ヲ百人ゾ、年々採ラナケ
レバナラヌ、其百人バカリノ試補ノ中ニ三十人四十人五十人
ハ之ガ辯護士ニナツタリ、死ンダリスルノデ、實際百人採ッテ七
十人ノ缺員ヲ充タスニ困ッテ居ル、ソコデモウ一ツ困難ナル事ガ

アリマス、今年ハ丁度試補ノ試験制度ガ改メタ故ニ、詰リ帝
國大學卒業生ヲイキナリ試補ニ採ルコトハ出来ナイ、ソレ
デ帝國大學卒業生ガ丁度三月ノ末ニ卒業スルノデアリガ、今年
ノ卒業生カラ直ニ司法官試補タル資格ガ無い、ソレカラ私
立大學令ニ依ル所ノ卒業生モ非常ニ少イ、今年ハ丁度百人
採ルト云フコトガ既ニ困難デ、今年ハ先ツ補缺ダケノ判事
ヲ採ルト云フコトニシテ、來年度ニ於テ即チ十三年度ニ於
テ六十人位ハ採レルダラウ、百人ト併セテ百六十人、ソレカ
ラ十四年度ニ於テ八十人採ル計畫、即チ百八十人、ソレカラ
十三年度、十四年度、十五年度ニ於テ後ト皆採レルダラウ、
其後ニナルト私立大學ノ卒業生モ大分出来テ來ル、ソコデ
十五年度ニ於テ初テ試補ト云フモノガ三年デ二百五十六人
増員ニナル、是ハ勿論二百五十六人ノ試補ヲ採ッテ置イテ
モ、此中カラ段々ト引イテ行ク人ガアルカラ、二百五十六人
デハ足ラナイ、ドウシテモ三百人以上ノ試補ヲ養成シナケ
レバナラヌ、ソコデ十五年度デ試補ガ揃フシテ、其中ヲ半
數ニ見テ十五年度ノ分ハ後ト一年半見習フシテ檢事トナリ
判事トナル、サウスルト十六年ノ八月、十七年ノ四月末ニナ
テ初テ判事ト云フ者ガ出来ルコトニナルノデアリマス、サ
ウ云フコトニナルカラ、ドウシタ所ガ判事二百五十六人ヲ
揃ヘルト云フコトハ非常ニ困難ナデス、大正十七年度ニ
於テ之ヲ完全ニ揃ヘルコトスラ困難デアアルノデスカラ、是
ヨリ前ニ二百五十六人ノ判事ヲ揃ヘルコトハ絕對ニ困難デ
アル、ソレデ大正十七年度以前ニ人員ヲ養成スルト云フノ
ハ、人員ヲ揃ヘル爲ニ絕對ニ不可能デアリマス、ソレデ人員
ガ揃ハナケレバ十七年度マデハドウシテモ全部ノ實施ガ出
来ナイ、建築ハ人サヘ澤山使ヘバ一箇月デモ出来ルケレド
モ、人員ガ揃ハナイカラ十七年度迄ニ造レバ宜イ、ソレカラ
宣傳問題モソレマデニ宣傳スレバ宜イ、ドウシテモ出来ナ
イノハ人員問題デ、建築ガ出来テモ人員ガ揃ハナケレバ實
施ガ出来ナイ、早ク建築スルコトハ無用ノ事デアアルカラ、十
七年度迄ニ造ル、十七年度前ニ實施スルコトハ絕對ニ不可
能デアアル、是デケ申上ゲテ置キマス

○原委員 結局人員問題ニ到着スルモノト本員ハ考ヘテ御
尋シツ、アルノデアリマスガ、山内次官ハ強ク絕對ニ出来
ナイト云フガ、人員問題ハ何モ絕對ニ出来ナイ問題デハナ
イト思フ、本年度カラハ大學卒業生ハ資格ノ點ニ於テ採用
ガ出来ナイト云フコトニナツテ居ルト云フコトハ承ッテ居リ
マスガ、司法部ニ於テ是デケ必要ノアル今日ニ於テ、政府ガ
此帝大ヲ出ル所ノ人材ヲ選シテ置イテ、サウシテ絕對ニ採
用スルコトガ出来ナイト云フコトハ、是ハドウモ國家ノ見
地カラ觀テ、人材登用ノ上カラ云フト、甚ダ不經濟ノ話デア
リハセヌカト思フ、政府ハ是デケノ大事業ヲヤラウトシテ

居ルハデアアルカラ、唯、些細ナ任用問題、資格問題ノ事ニ拘
泥シテ、大正十七年度ニ非サレバ絕對ニ採用スルコトガ出来
ナイト云フガ、私ハ絕對デナイヤウニ思フ、宜シク斯ウ云フ
國家最大ノ必要ノアル場合ニ於テハ、門戸ヲ開イテ人材ヲ
登用スル途ヲ講ジナケレバナラヌト思フ、折角帝大ヲ卒業
シタ學生ガ、今日ハ賣口ガ無クテ困ッテ居ル際デアアル、ソレ
ヲ御採用ニナルト云フ御考ヲドウシテ御持ニナラヌデアリ
マセウカ、其點ヲ伺ヒタイ

○山内府委員 帝大出ノ秀才ガ澤山アツテ、サウシテ今日
就職難ト云フコトハ私モ聞イテ居リマスケレドモ、司法官
試補ハ帝大ヲ卒業シテ直グ採ルト云フコトハ出来ヌ、試験
ヲ受ケナケレバナラヌ、試験ヲ受ケズニ採ルコトガ出来レ
バ結構デアリマスガ、試験ヲ受ケナケレバ採ルヌカラ採レ
ナイト云フノデス、或ハ斯ウ云フ趣旨ガ包含シテ居ナカ
カモ知レマセヌガ、若シ二三年前カラ澤山學士ヲ買ッテ置イ
タナラバ、サウ云フコトモナカッタデセウガ、陪審法實施ノ爲
ニ豫メ澤山ノ試補ヲ採ルト云フコトノ出来ナイコトハ、先
刻大臣カラ言ハレタ中ニモ包含シテ居ル、陪審法ガ實施サ
レテ初メテ人員ガ要ル、ソコデ帝大卒業生ヲ直ニ試補ニ採
レルカト云ヘバ採ルヌ、此試験ヲ受ケルノハ八九月十月頃
ト思ッテ居リマスガ、其上デナイト採ルヌ、而モ司法官トシ
テ及第シタ適當ノ人ヲ採ルニ付テハ、百人ト云フモノガ果
シテ間ニ合フヤ否ヤモ困難ニ感じテ居リマス、從來年々大
學卒業生ハ特權アルガ爲ニ其中カラ適當ノ人ヲ選シテ採ル
ノト、ソレカラ試験ヲシテ採ルノト、兩方合セテ無理ヲシタ
トキニハ百五十人モ採ッタコトガアリマスガ、其成績ガ甚ダ
宜シクナイ、大體百人位ノ所デアラウト思フ、併シ此大學令
ニ據ル所ノ私立大學卒業生ガ段々殖エテ來ルカラ、此五ツ
ノ大學又大阪ノ方ニモアリマスガ、斯ウ云フ大學卒業生ト、
帝國大學卒業生ト皆試験ヲ受ケルヤウニ揃ッテ來タナラバ、
段々人間ガ殖エマスガ、今ノ所ハ如何ニ就職難ノ大學卒業
生ガアツテモ、法律ガ禁ジテアルカラ、無試験デ採用スルコ
トハ出来ナイ、法律ヲ改正スレバ宜イガ、サウハイカナイ、
私ガ絕對ニ出来ナイト云フタノハ、相對的ノ絕對デアリマ
スカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ

○原委員 山内次官ノ絕對ノ聲明ヲ得タノデアリマスガ、
私ノ聽カントスル所ハ任用令ノ資格問題ニ關シテ、法律改
正ノ點ニマデ及ブノデアリマスガ、國家必要ノ前ニハ皆法
律ハ改正シツ、アルノデアリマス、斯ウ云フ喫緊ノ場合ニ
當ッテ、帝大ノ卒業生ヲ無試験デ採用スルコトハ一時的ノ規
定ヲ何ガ故ニ御發案ニナラヌノデアリマスセウカ、是ハサウ
困ッタ問題デハナイト思フ、一面ニ於テ非常ニ急グト云フ司
法大臣ノ續々ノ御説明デアアル、サウシテ四五年間何故掛ル

ヤト云ヘバ一面ニハ法律ガ在テ折角人材ガアッテモソレヲ逸セシメナケレバナラヌ、其爲ニ四年モ五年モ待タナケレバナラヌ、其事情ヲ排除スルコトハ、國庫ノ機關ニ任ズル方ノ御發案ニ俟テバ輒ク出來ル問題デアリマス、又人經濟ノ上ニ於テモ洵ニ結構ナ事デアル、最高府ノ學問ヲ終ッテ、サウシテ實地ニ就カウト云フ人ガ、職ガ無クテ困テ居ルノデアル、之ヲ斯ウ云フ好イ機會ニ於テ救済スルコト云フコトハ、極テ必要ナ事デアルト思フ、此點ニ付テ御説明ヲ煩シタイ

○岡野國務大臣 私が只今ノ原君ノ御質問ヲ伺ヒマシテモ、結局御意見ニ歸スルヤウデアリマス、併ナガラ私ノ知ッテ居ル範圍ニ於テ、一應御答ヲシテ置キタイと思ヒマス、是ハ原君モ御承知ノ通り試験制度ノ改正ト云フコトハ、非常ニ長イ間ノ懸案デアリマス、之ニ伴ッテ大學卒業生ノ特權ヲ其儘ニ維持スルガ適當カドウカト云フコトハ、長イ間論議セラレタル所ノ問題デアル、又官立大學ト私立大學ト同等ニ待遇スベキヤ否ヤト云フコトモ、長イ間論議セラレタル所ノ問題デアル、ソコデ試験制度其モハ統一セラレマシテ、サウシテ是ガ爲ニ裁判所構成法ノ改正モ既ニ成リマシテ、裁判所構成法ニハ、帝國大學法科ノ卒業生ハ司法官試験ニナレルト云フ規定ガアッタデアリマス、之ヲ改正致シマシテ、帝國大學法科ノ卒業生ト雖モ、試験ヲ受クル非ラズンバ司法官試験ニ任用スルコトヲ得ナイト云フコトニ裁判所構成法ヲ改正致シタデアリマス、此特權ヲ廢スルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、或ハ原君ハ別ニ又御意見ヲ御持チデアリマスルカモ知レマセケレド、一ツニハ行政官トナルニハ國家試験ヲ受ケネバナラヌ、是ハ以前カラサウナッテ居ルノデアリマス、外交官トナルニモ亦試験ヲ受ケネバナラヌ、獨リ司法官試験ニナルダケニハ、何故試験ガ要ラナイノデアルカ、國家試験ガ何故不必要ナノカ、是ハ餘程考ヘテ見ナケレバナラナイ問題デアラウト思ヒマス、而シテ此實質カラ申シマシタナラバ、司法官タルモノ、地位ヲ向上スル上ニ於テハ、大學卒業ノ上ニ更ニ行政官ト同様ノ國家試験ヲ受ケサセタ方ガ、司法官ノ向上ニハ利スル所アルトモ決シテ失フ所ハナイノデアリマス、度々司法官ノ待遇ニ付テハ委員會ニ於テハ色々御議論ハアリマスケレドモ、行政官ト同様ニ待遇シタラ宜カラウ、又吾々モ左様ニ努メタイト云フコトヲ、何遍モ繰返シテ申上ゲテ居ルノデアリマスケレドモ、行政官ニナラヌハ高等試験ヲ受ケネバナラヌ、國家試験ヲ受ケネバナラヌ、司法官ニナルニハ國家試験ヲ受ケナイデ宜シイトシテ、而シテ國家ノ待遇ヲ同一ニスルト云フコトハ、事實ニ於テムジカシイ事デ行ハレナイコトドラウト思ヒマス、又司法官ニ限ッテ何故大學ノ卒業生ヲ國家試験ヲ要セズシテ行クト云フコトノ理由モ、私ハ甚ダ説明ニ苦シマネバナラヌ

ト思フ、又當ニ此條給其他ノ給與ノ上ニ於テ、司法官ヲ優遇スルト云ツタヤウ意味バカリデハナイ、司法官ト云フモノノ地位ヲ高クシテ、而シテ矢張司法權ノ運用ニ付キ國民ノ信賴ヲ受クルト云フコトニ付テハ、自カラ司法官タルニ求ムル所ガナケレバナラヌト私ハ思ヒマス、斯ノ如キ色々理由ニ依リマシテ、帝國大學ノ卒業生モ、矢張國家試験ヲ受クルニ非レバ試験タルコトヲ得ズト云フコトガ、大正七年ニ制定セラレマシタ、而シテ御承知ノ如ク又一方ニ官立大學同等ノ待遇ト云フコトハ、是モ長イ間ノ問題デアリマス、是ガ大學令ニ依ッテ官私同等、即チ差別撤廢ト云フコトノ原則ガ採用セラレテ、今行ハレテ居ルノデアリマス、而シテ司法官試験ニ採用スルニ於キマシテ、唯、帝國大學ノ卒業生ダケガ昔ノ裁判所構成法ノ規定ニ基イテ獨リ司法官試験ニナル特權ヲ得テ、等シク大學令ニ依ッテ支配スル所ノ私立大學ノ卒業生ハ、國家試験ヲ受ケネバナラヌ、是ハ私ハ大學令ノ精神ニ反スルノデアル、世論ニモ反スル所ノ逆行シタル所ノ政策デアルト考ヘルノデアリマス、而シテ其裁判所構成法ノ規定ト云フモノハ、五年ノ後ニ行ハレト云フ規定デアリマシテ、將ニ此三月ノ一日カラ施行セラレトシテ居ルノデアリマス、私ハ自分自ラ職ヲ長イ間帝國大學ニ奉ジテ居リマシテ、私情カラ申シマシタナラバ、帝國大學ノ卒業生ニ特典ヲ與ヘタイト云フ考ハ無イノデアリマセヌ、併ナガラ是ハ私情ノ問題デアル、國家ノ制度トシテ考ヘテ見マシタナラバ、矢張是ハ特權ヲ廢スルガ適當ナリト云フコトヲ私ハ確信シテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ自分ガ大學ニ居ル間ニモ、特權廢止ニ賛成シ、當ニ賛成シタノミナラズ、主張シタ位デアリマス、今ニ於テ此特權ヲドウ云フヤウニ改革セラレ、御意見デアアルカ知レマセヌガ、私ハ適當デナイト存ズルノデアリマス、而モ帝國大學ノ卒業生ニ限ルト云フヤウナ御意見デアリマシタナラバ、益々以テ私ハ甚ダ不適當デアルト言ハザラ得ナイ、ソレデアリマスカラ

先刻次官カラ其將來ノ計畫ニ付テ説明ヲ致シマシタ通り、俄ニ此際又帝國大學ノ特權ヲ回復スルコト云フコトハ、是ハドウモ事實行ハレナイ事デアラウト思フノデアリマス、成程陪審法ハ一度通過シタ後ニ於テハ、成ベク速ニ之ヲ施行シタイト云フ考ハ持ッテ居リマス、併ナガラ是ガ爲ニ長イ間ノ懸案トシテ漸クニシテ解決セラレテ、今ヤ二月一日ヲ待テ將ニ施行セラレントスル試験制度ノ根本ニ向ッテ、又變革ヲ加ヘルト云フコトハ、等シク國家ノ制度デ、是ハ私ハ手ヲ著ケヌ方ガ、即チ特權ヲ回復スルコト云フヤウナ策ヲ執ラヌ方ガ、私ハ國家ノ爲ニ望シイト思ヒマス

○黒住委員 大變オ波レノ所ヲ恐縮デアリマスガ、實施準備ニ付テ御伺スルコトガ、議事ノ進行上便利デアルト思ヒ

マスカラ御伺ヲ致シマスガ、陪審法施行準備ノ一ツデアル陪審制度實地ノ運用ヲ研究調査スル爲ニ、我が司法官ヲ歐米ニ派遣サレルコトニナッテ居ルト云フ御説明デアリマシタガ、司法ノ三機關デアル辯護士ヲモ、此機會ニ派遣サレル御意思ガ無いノデゴザイマセウカ、此點ヲ御伺シテ見タイト思ヒマス、申ス迄モナク司法ノ向上發展ヲ期シマスルニハ、辯護士モ共同責任デアアル、殊ニ陪審制度ノ如ク民意ヲシテ生レマシタル新ラシキ試ミデアリ、而シテ又此制度ヲ將來最モ能ク發育ヲ國民全體ガ要望致シテ居ルノデアリマス、是等ノ事ニ研究ヲシ、調査ヲシ、完熟セシメルト云フコトノ爲デゴザイマス以上ハ、辯護士ヲモ派遣スルコト云フコトハ、當然ノ事ト私ハ考ヘルノデアリマス、從來私ハ機會アル毎ニ辯護士ノ問題ニ付テ司法當局ニ御伺シテ居ルノデアリマスガ、毎年御實行ニナッテ居ル所ノ司法官會議ニモ、辯護士會ヲ代表シタル者ヲ一人各地方辯護士會ヨリ一人ヅ、位御招集ニナルノハ、司法事務ノ能率ヲ擧ゲマスル上カラ申シマシテモ、民意尊重ノ現時ノ傾向ニ鑑ミマシテモ、極メテ肝要ナ事デアルト私ハ考ヘル、毎年はハ私ハ伺ッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ機會ハ再び私ハ無イト思フ、人件費ニ致シマシテモ、極メテ少額デ宜イト思ヒマス、從來數多ノ委員ヲ御意見ガアル如ク、司法省ハ頗ル官僚的デアルト云フヤウナ此考ヲ緩和スルノニハ、斯ノ如キ此陪審制度實施ニ付テ、斯様ナ方法、即チ辯護士ヲ派遣サレト云フコトハ、頗ル有益ナ事デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、尙ホ將來ハ辯護士ヲ司法官ニ採用サル、傾向ガ刻々ト生ジテ來テ居ルト私ハ思フ、追々ト斯ウ云フコトニナラウ、單ニ是ハ聲バカリデハナイ斯ウ云フ意味ニ於キマシテモ辯護士ト云フ者ヲ共ニ派遣サレテ、此新シキ試ミ、而シテ間違ノ無イヤウニ最モ完全ニ成長シテ參リマスヤウニスルノニハ、共ニ辯護士ヲ派遣スル必要アリト私ハ信ズルノデゴザイマスルガ、司法大臣ノ御所見ヲ伺ヒマス

○岡野國務大臣 辯護士即チ民間ノ法曹ヲシテ外國ノ陪審制度運用ノ實況ヲ觀察セシムルコトノ必要ナルコトハ、私モ特ニ之ニ認メテ居ルノデアリマス、其點ニ於テハ黒住君ト全然御同感デアアルノデアリマス、而シテ昨年來此點ニ付テハ陪審法ニ頗ル熱心ナル江木博士ト話合ヲ致シタコトモアルノデアリマス、而シテ江木君ノ意見ニ依レバ、司法省ハ司法省陪審制度ヲ觀察ニヤルト云フコトハ、成ベク餘計出シタ方ガ宜イ、而シテ我等民間ノ法曹トシテモ、自ラ相當ノ人ヲ派遣シテ外國ノ制度ヲ十分ニ觀察スルコトガ適當デアルト云フコトヲ、私マデ申出ラレテ居ルノデアリマス、私ハ至極御同感デアアルノデアリマス、併シ其話ト云フモノハ、ホシノ私談ニ過ギナイコトデアリマスケレドモ、江木君ノ意

見ハ、政府デ判事檢事相當ノ員數ヲ遺ルガ宜シイ、民間ハ又大ニ奪テ自ラ人ヲ選拔シテ、サウシテ之ヲ外國ニ遣ラタラシイト云フノ意見デアッタノデアリマス、此點ハ私ハ江木君ノ意見ニ至極同感ヲ表シテ居ルノデアリマス、今日段々民間ノ法曹モ殖ヘ、辯護士會モ段々固クナッテ、辯護士會自ラ黑住君ノ御話ニアリマスヤウナ僅ナ費用ヲ以テ人ヲ外國ニ派遣スルコトガ出來ル云フヤウニナレバ、是ハ私ハ至極歡迎セネバナラスと思フノデアリマス、唯、政府ヨリ費用ヲ出シテ、サウシテ民間法曹ヲ選シテ遺ルカ遣ラヌカト云フ事ニ付テハ、是ハ尙ホ今日ハ考慮シテ居ル所ノ問題デハナイノデアリマス、少クモ明年度ニ於キマシテハ即チ追加豫算ヲ以テ要求スル約十萬ノ費用ヲ以テ致シマシテハ、中々ソレマデ手ガ伸ビナイノデアリマス、先刻モ申述ベマス通り、技師ヲ建築視察ノ爲ニ一人若クハ二人派遣スルノ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス、他ニ三人位シカ出スコトガ出來ナイノデアリマス、併ナガラ十二年度ヲ以テ外國派遣費ヲ打切ル積リデハナイノデアリマス、十三年度以降十六年度ニ至ルマデ、矢張派遣スル積リデアリマスカラ、此多數ノ中ニ民間ノ法曹ノ中カラ選シテ之ヲ煩ハスコトニ至ルカモ分リマセヌケレドモ、其點ハ尙ホ政致シマスカレドモ、少クトモ十二年度ノ追加豫算デハ到底手ノ及バヌト云フコトダケヲ御諒承ヲ願ヒタイと思ヒマス、趣旨ニ於テハ頗ル御同感デアリマス

○黒住委員 私ハ先程其理由ヲ述ベマシタ後段ニ申シマシタルガ如ク、制度ニ慣レシムルト云フ簡單ナ事バカリデナイ、即チ此司法省カラ見タル在野法曹——在野法曹ト申シマスルト同時ニ、此民間ト云フモノニ響ク問題デアリマス、斯ウ云フ機會ニ御派遣ニナルト云フコトハ、非常ニ感ジノ好イ問題デアリマス、口ヲ開クト官僚裁判デアルトカ、司法省ハ官僚的デアルトカ云フヤウナ氣分ガ歴史上アリマシタノデアリマス、斯ウ云フ著シク此民意ヲ尊重セラレタル新シキ制度ガ出來マスル此機會ヲ、成ベク私ハ利用シテ見タイ、斯ウ云フ私ノ考デアリマス、只今司法大臣ノ御説明ニ依ルト云フト、後ニハサウ云フコトヲ達スルカモ知レス、併ナラ來年度ハヤラスト云フコトヲ御明言ニナリマシタガ、ソレガ私ハ甚ダ面白クナイ、極メテ僅ナ事デアルト思ヒマス、陪審制度ノ期待シテ居ル相當ナ效果ヲ擧ゲルト云フコトニ付キマシテハ、大臣屢々御説明ノ如ク、幾多ノ準備ニ金ヲ御使ヒニナリ、人ノ派遣ニ、宣傳ニ、有ユル方法ヲ御盡シニナルト云フコトデアリマス、三人司法官ヲ出ス所ニ、司法官ヲ二人デ、辯護士ヲ一人ヤ、テドウ云フコトニナルデアリマセウ、更ニ辯護士ヲ二人追加シマシテ、人件費ニドレ程ノ増加ニナルデアリマセウカ、吾々ハ辯護士會カラドウト云フ

ヤウナコトヲ申スノデハゴザイマセヌ、所謂政府カラ御覽ニナリマシテ、在野法曹ノ權威アル辯護士ヲ煩ハスト云フコトハ、吾々ハ非常ニ氣持ノ好イ、又サウシテ將來此制度ノ運用ニ多大ニ益スル所ガアラウト思ヒマス、將來ノ事ハ兎モ角モ、最初ヨリ何トカ司法大臣ノ御盡力ニ依リマシテ、私ノ希望ヲ御容レ下サル譯ニハ參リマスマス、重ネテ申シマス

○岡野國務大臣 是ハ先刻述ベマシタ如ク約十萬——九萬六千圓程ノ追加豫算デアリマス、此追加豫算ハ、實ハ既ニ決シテ居ルノデアリマス、或ハモウ提出セラレテ居ルノデハナカラウカト思フ程ニナッテ居ルノデアリマス、而シテ此追加豫算ヲ要求致シマシタル所ノ理由ハ、先刻述ベマシタ如ク十三年度ヨリ建築ヲ實行セントスルニ付テ、主トシテ此建築ノ方ヲ先ヅ研究サセル爲ニ二名程出シタイ、ソレカラ後ノ三人ハ、本省ヨリ一人遣リタイト思ヒマス、一人ハ判事ヲ遣リタイ、一人ハ檢事ヲ遣リタイ、斯ウ云フノデ自カラ其五人ガ塞ガル譯ニナリマス、尙ホ十三年度ヨリ十六年度ニ至ル間ニ、ドウセ長イ間視察スル譯デアリマセヌ、十三年度以降十六年度ニ至ル間ニハ、私ハ今ノ黒住君ノ御考ニ御同感デアル以上、十分考慮致シマス、併シ明年度ハ一寸手ガ伸ビ難ネルト私ハ思フノデアリマス、併ナガラ御希望ノアル所竝ニ御希望ノ理由アル所ハ、十分ニ私ハ能ク諒承ヲ致シテ置キマス

○黒住委員 榮揚イヤウデアリマスルガ、重ネテ申上ゲテ、置キマスガ、兎角海外ニ物ノ調査ニ參リマスノ、政府カラ參リマスルノト、民間カラ參ルノトデハ、色々彼方ヲ歩カレタ人ノ話ニ依ルト、非常ニ相違アル、即チ政府カラ參リマスルト極メテ便利デアルト云フコトデアリマス、何トカシテ私ハ諒イヤウデハゴザイマスルガ、此一ツノ方法ヲ篤ク御留意下サルト云フコトハ、日本辯護士全體ニ響ク問題デアリマス、辯護士ヲ通シテ人民ニ響ク問題デゴザイマスカラ、一年後ニ延バスト云フ御話デハゴザイマスルガ、色々御事情モゴザイマセウケレドモ、切メテ一人デモ御加ヘ下サランコトヲ切望致シテ置キマス

○原委員、本案ノ施行期日ニ關スル問題、竝ニ本案ノ提出理由等ニ於テハ、一應前來ノ質問ヲ以テ打切リト致シマシテ、更ニ本案ニ付テ要點ダケヲ質問致シテ置キタイデアリマス、先ヅ第一番ニ本案ニハ公判準備期日ト云フモノガ規定シテアルノデアリマスガ、此公判準備期日ト云フモノ、刑事訴訟法上ノ意義ヲ一應御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、○林政府委員 公判準備期日ハ其名ノ現ハシテ居ル如ク、公判期日ニ於テ取調ベキ證據ノ準備ヲスル、サウシテ其準備ヲ整ヘテ公判ヲ開キ、其公判期日ニ於テハ有スル證據

ヲ直接審理ノ原則ニ依ッテ調べ、サウシテ相成ベクハ一日ヲ決スル、斯ウ云フ關係ニナルノデアリマス

○原委員 然ラバ刑事訴訟法上、矢張公判デアルノデアリマセウカ

○林政府委員 公判準備期日デアリマシテ、公判期日デアリマセヌ、併ナガラ廣イ意味ニ於テハ、公判ノ手續デアリマス

○原委員 廣イ意味デモ狹イ意味デモ構ヒマセヌガ、刑事訴訟法上豫審若クハ捜査等デハナクシテ、單純ニ公判ト云フコトデアラウト思フノデスガ、外ニ意味ガアリマスカ

○林政府委員 捜査デモ豫審デモナイト云フコトハ、御尋ノ通りデアリマス、併ナガラ公判手續ト云フコトハ、サウ單純ノモノデアリマセヌ、所謂本然ノ公判モアレバ、公判ノ準備モアリマス、公判ノ手續デアッテモ、本然ノ公判ノ手續デハナイ、所謂準備ノ手續デアリマス

○黒住委員 議事ノ進行ニ付テ一言致シマス、決議案ガ最早議題ニナッテ居リマスカラ、是ダケデ止メテ戴キタイと思ヒマス

○原委員 一點ダケ……本員等ノ解スル所ニ依レバ、是ハ矢張疑モ無ク公判デアルト斷言致スノデアリマス、斯ウ斷定致スト云フト、此公判期日ハ之ヲ公開シナイト云フ規定ガアルノデアリマス、此公開シナイト云フ規定カラ見レバ、是ハ極メテ重大ナル關係デアリマシテ、中ス迄モナク是ハ憲法違反ノ規定デハナイカト思フ、憲法ニハ絕對ニ——若シ山内次官ノ言葉ヲ借りテ言ヘバ、相對的絕對ニ、是ハ公開ガ原則デアルノミナラズ、是ハモウ刑事訴訟法上ノ大原則デアッテ、上告裁判所ニ於キマシテモ、此裁判ヲ公行シナイト云フコトガ、上告ノ理由ノ中ニモ明記シテアル位ナ事實デアル、是等ノ點ハ申ス迄モナイ、ソレヲ公開セナイト云フコトハ如何ナルコトデアリマセウカ、此點ニ付テ承リタイ

○林政府委員 帝國憲法ニハ公判ノ手續ハ總テ公開セヨト云フ原則ハアリマセヌ、憲法ニ於テハ對審及判決ハ公開スベシトアリマス、所謂準備手續ハ憲法ノ對審ニハ當リマセヌ、今日モ公判手續ノ所謂準備手續ハ公開シテ居リマセヌ、民事訴訟法ニ於テモ準備手續ハ公開シマセヌ、ドウモ憲法ノ解釋ニ於テ根本カラ私ハ違フノデアリマス

○原委員 序デゴザイマスカラ——此準備期日ノ公判手續ハ對審ニアラズトハ、ドウ云フ事デアリマスカ、對審ト云フ事ヲ承リタイト思ヒマス

○林政府委員 別ニ御答スル必要ハ無イカモ知レマセヌガ、對審ト云フコトハ、一般ノ學者モ認メテ居ル通り、當事者ヲ對立セシメテ、本案ノ審理ヲスルト云フコトデアラウ

ト私モ解シテ居リマス、準備手續ハソレニハ當リマセヌ

○原委員 其通りデアリマス、準備手續ニ於テ對審ラスル
ト云フコトハ、此規定ニチヤント定メテアル、即チ被告人ヲ
訊問シ、證據調ヲシ、ソレニ依ッテ公判ノ準備ラスルト同時ニ、
其被告人ノ供述如何ニ依テハ非常ナル効果ガアル、即チ若
シ被告人ガ犯罪ノ事實ヲ自白シタナラバ、陪審ノ請求ガ出
來ナイト云フ規定ニナッテ居ル、本案ニ於テ訊問シ、サウシ
テ檢事、辯護士ノ立會ヲ以テ此期日ヲ定ムルノデアアル、是ハ
林君ノ所謂對審ニ當ルノデアリマスカ、何カ外ニ理由ガア
リマスカ

○林政府委員 準備期日ニ於テシテ訴訟行爲ガ、一定ノ効
果ヲ生ズルト云フコトハ、御尋ノ通りデアリマス、訴訟行爲
ガ一定ノ効果ヲ生ズルノハ當然デアリマス、豫審中ノ行爲
デモソウデアアル、從テ一定ノ効果ヲ生ズルガ故ニ、對審デア
ルト云フ議論ハ私ハ取リマセヌ

○原委員 デアリマスカラ本員ハ對審トハドウ云フコトデ
アルカト云フコトヲ御尋ネ致シテ置イタノデアリマス、所
デ其答ニアッタ對審ノ具體的ノ事ハ、總テ公判期日ニヤルト
云フコトデアアル、其事ハ本案ニ規定シテアル、サウスルト矢
張對審ト云フコトニナルノデアリマセヌカ

○林政府委員 重ネテ申上グル必要モナイヤウデアリマス
ガ、要スルニ公判期日ニ於テ本案ノ取調ヲシテ、ソレガ基礎
トナッテ判決ニナリマス、私ノ本案ト云フ意味ハ、其意味デ
申スノデアリマス、即チ判決ノ基礎トナル審理ヲ云フノデ
アル、準備ト云フコトハ當リマセヌ、是ハ殆ド疑ナイ論ト私
ハ確信シテ居リマス

○原委員 私モ疑ナイト思フノデアリマスガ、世界各國ノ
陪審制度ヲ見マシテモ、此公判準備ノ期日ヲ探ラナイデ、是
ハ對審デナイト云フコトハ誰モ申サヌダラウト期シテ居ッタ
ノデアリマスガ、又諸外國ノ陪審法ヲ見マシテモ、此公判準
備期日ナルモノハ、何レモ公開致シテ居ルノデアルト私ハ
諒解致シテ居ルノデアリマスガ、本案ト云フ意味ハ準備公
判ノ本案ト云フ意味デ、御説明デ本案ト云フノハ、詰リ犯罪
事件其モノニ付テノ審理ヲ爲シテ居ル、而シテ捜査モ終リ、
訊問モ終リ、サウシテ公判ガ繫屬シテ居ル、サウシテ公判ノ
期日ヲ開イテ後ノ開クベキ準備デアルトシタ所ガ、是ハ矢
張陪審判決即チ三問關係ヲ以テ辯論主義ノ裁判手續中ニ入
テ居ル問題デアリマスカラ、當然公判デアルト思フノデス、
公行シナイト云フコトハ、是ハ近時ノ一般ノ刑事訴訟ノ趣
意ニ戻ル規定デアアルノミナラズ、私モ實ハ之ヲ見テ驚イタ
ル次第ニ考ヘテ居ル、陪審制度ナルモノガ人民ノ爲デア
ル、又此法案ヲ制定スル上ニ於キマシテモ、決シテ裁判官ヤ檢
事司法當局ノ爲メノ立案デナイ、人民ノ爲メノ法律デア
ル、

此人民本位ノ法律ニ於テ、是ダケヲ公行シナイ密行スルト
云フコトハ、ドウモ其趣意ニ於キマシテモ、亦憲法ガ保障シ
テ居ル所ニモ、非常ニ相違シテ居ルヤウニ考ヘマス、今ハ本
會議ガアルト云フ事デアリマスカラ、是デ折切リマスガ、尙
ホ此點ニ付テハ質問ヲ繼續致シタイト思ヒマスカラ、御熟
考ヲ願ッテ置キタイト思フノデアリマス

○鶴澤委員長 ソレデハ本日ハ是デ止メテ置キマシテ、明
日午前十時カラ開キマス
午後四時二十三分散會